

アルゼンティン園芸開発計画 実施協議調査団報告書

アルゼンティン園芸開発計画実施協議調査団報告書

平成10年12月

JICA LIBRARY



J1150357(0)

国際協力事業団

平成10年12月

71
357
49H

LIBRARY

農開園
J. R
98-18

アルゼンティン園芸開発計画 実施協議調査団報告書

平成10年12月

国際協力事業団



1150357 (0)

序 文

国際協力事業団は、アルゼンティン共和国政府の要請を受け、平成10年8月アルゼンティン園芸関係計画に関する事前調査を実施し、その調査報告を踏まえ、平成10年11月29日から12月10日まで岡山大学名誉教授 小西國義氏を団長とする実施協議調査団を現地に派遣しました。

同調査団は、アルゼンティン国政府関係者と実施のための協議を行い、討議議事録（R/D）及び暫定実施計画の署名交換を行いました。その結果、本プロジェクトを平成11年5月1日から5か年間の計画で実施することとなりました。

本報告書は、同調査団による協議結果を取りまとめたものであり、今後、本プロジェクトの実施にあたり広く活用されることを願うものです。

終りに、この調査にご協力とご支援を頂いた内外の関係各位に対し、心より感謝の意を表します。

平成10年12月

国際協力事業団

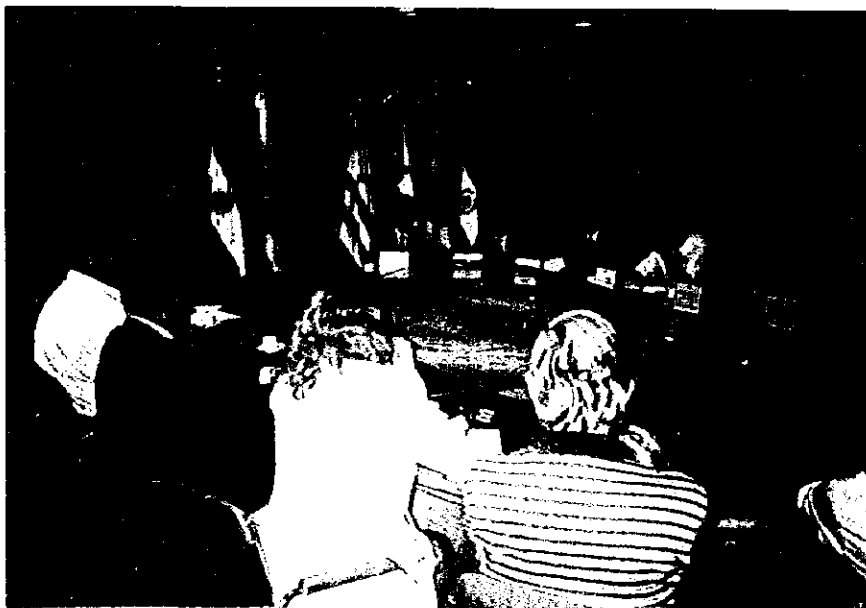
理事 亀 若 誠



農牧水産食糧庁長官表敬



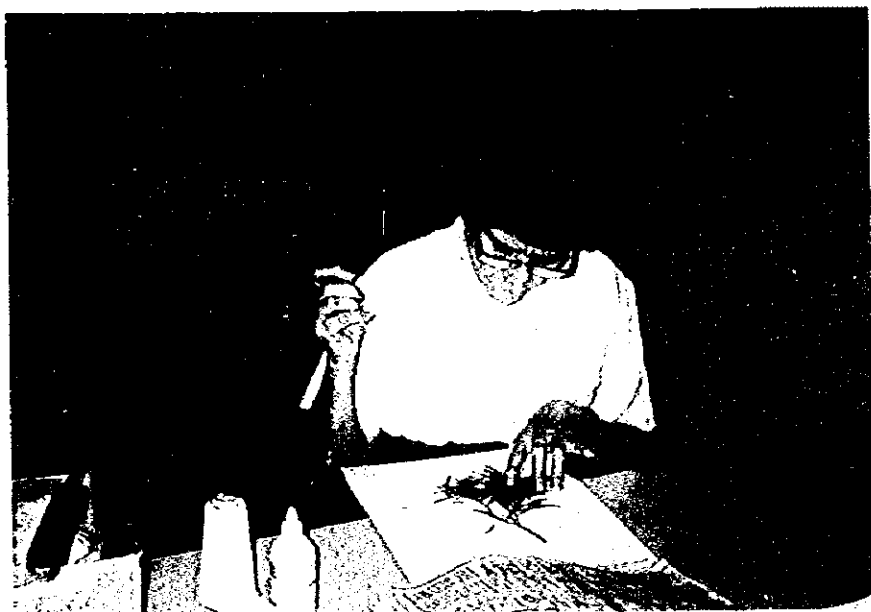
アルゼンティン外務省表敬



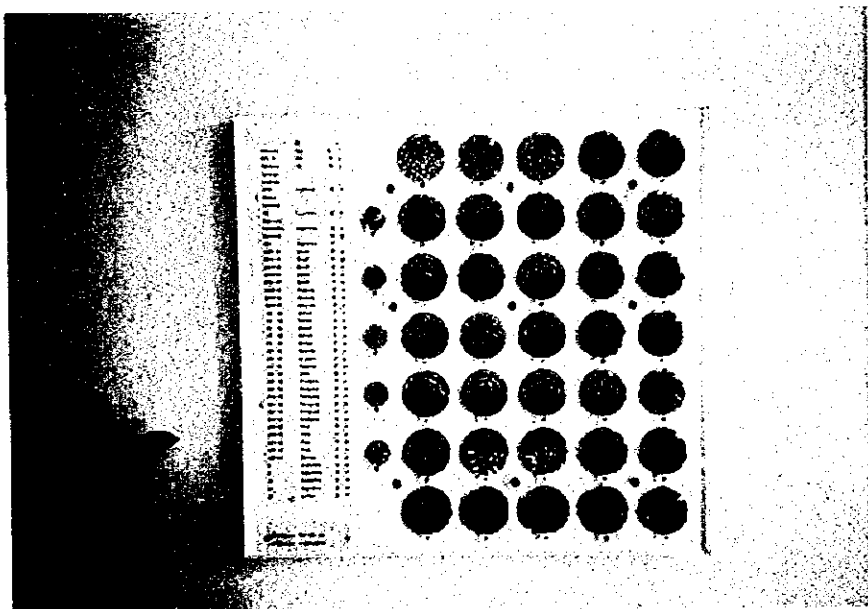
花卉・鑑賞植物委員会：意見交換



INTA 温室内



INTA 標本館：植物標本作成



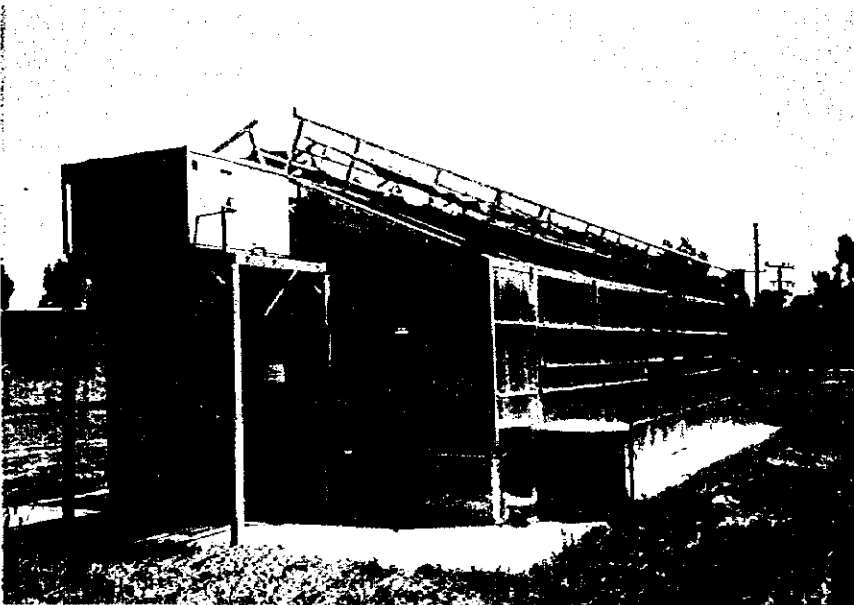
INTA：落花生の標本



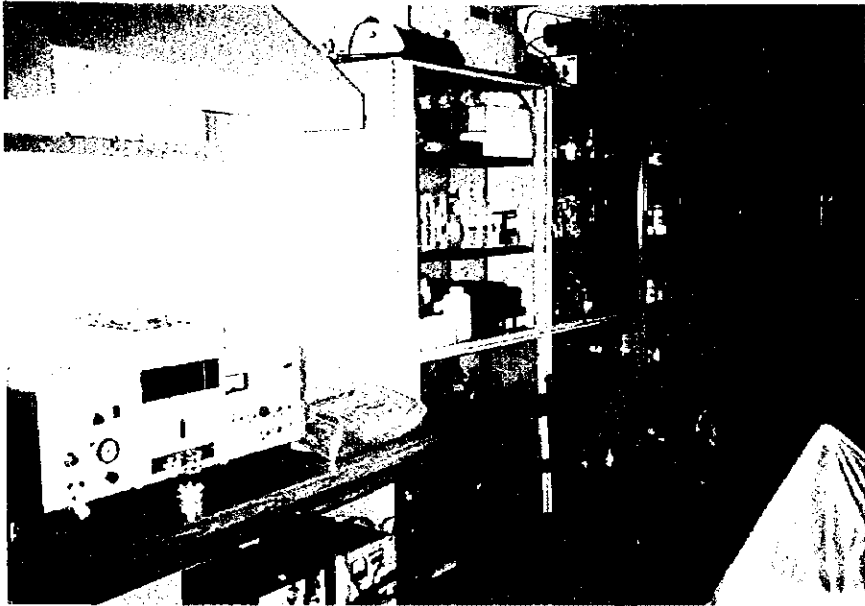
INTA : 生物資源研究室



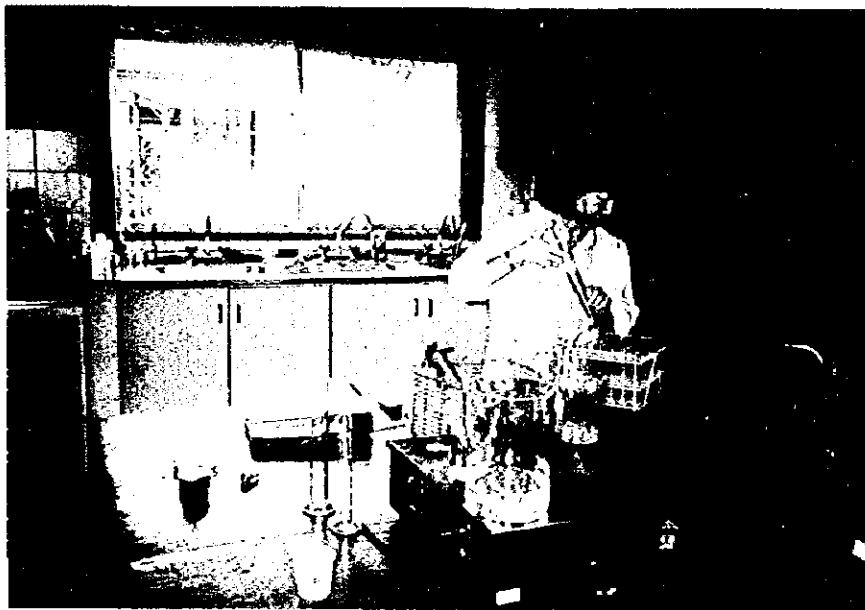
INTA : 種子発芽試験



INTA : 冷房付温室



CETEFFHO : 実験室



同上



同上 : 温室内



CETEFFHO 温室：アルス
トロメリア



ダーウィン研究所



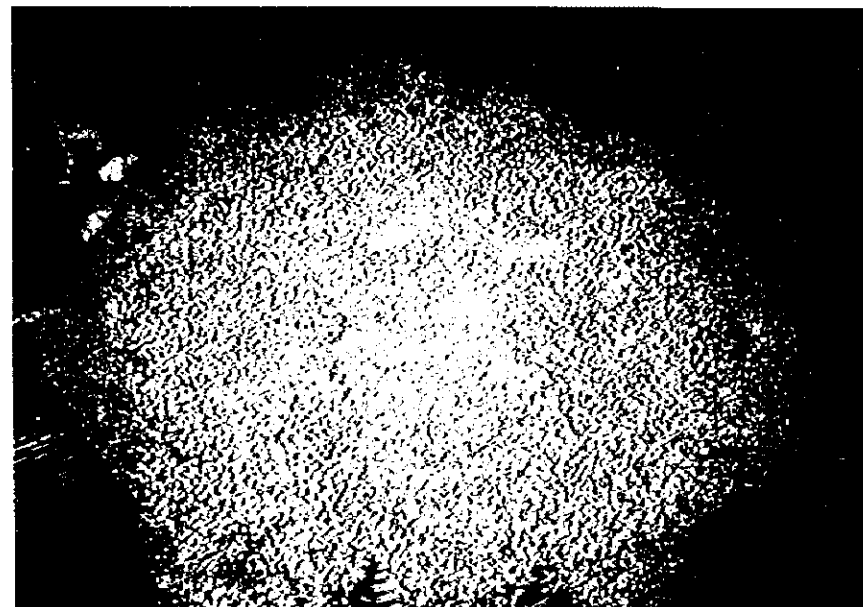
同上：植物に関する文献
及び標本が揃っている



花市場



同上：カーネーション



同上：カスミ草



花卉園芸組合役員との意見交換



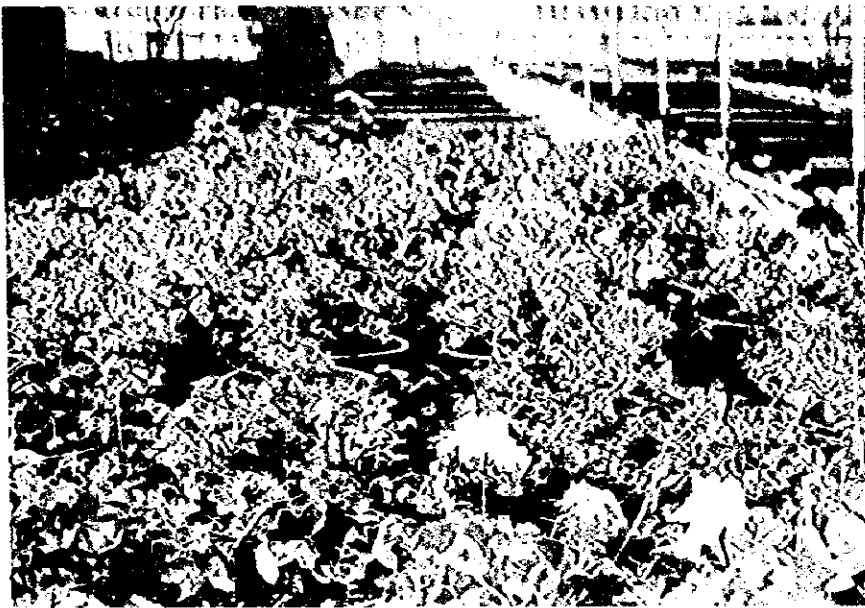
Naturalis 協同出荷場



同上



玉置園（鉢物栽培）



同上



同上：温室



久本園（バラ栽培）



同上



玉置園（観葉植物栽培）



細川園：櫚の組織培養



同上：温室内

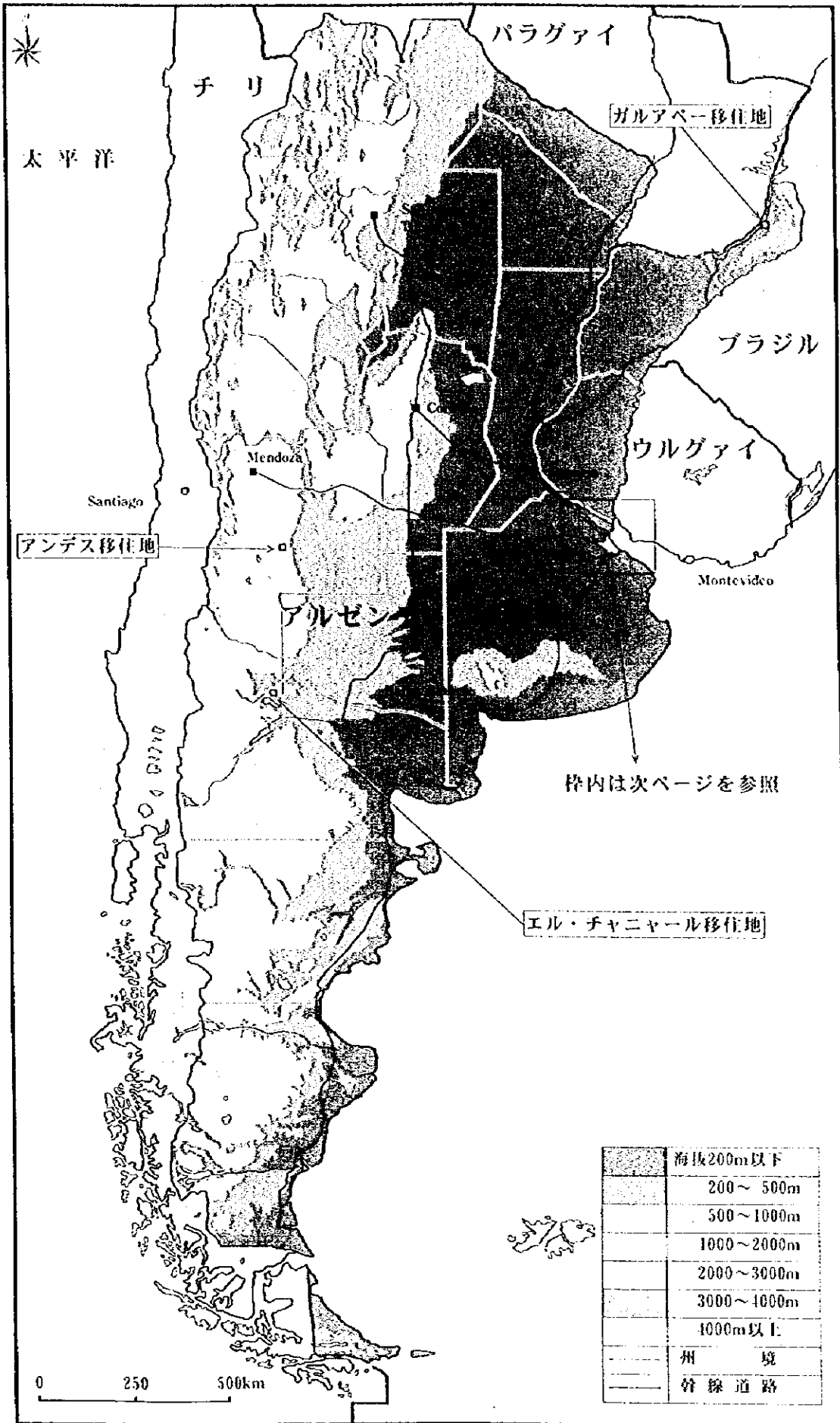


INTA 幹部との協議

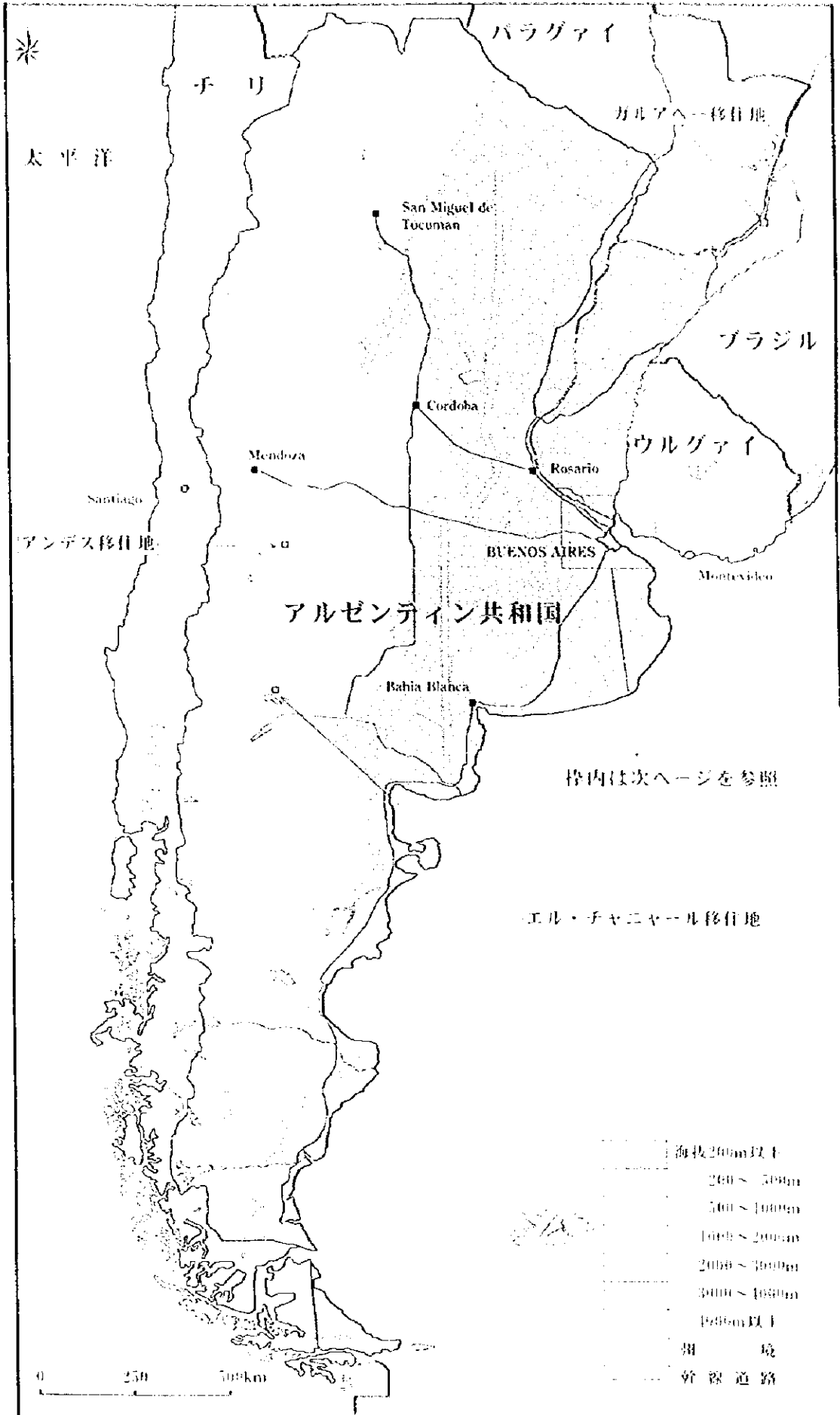


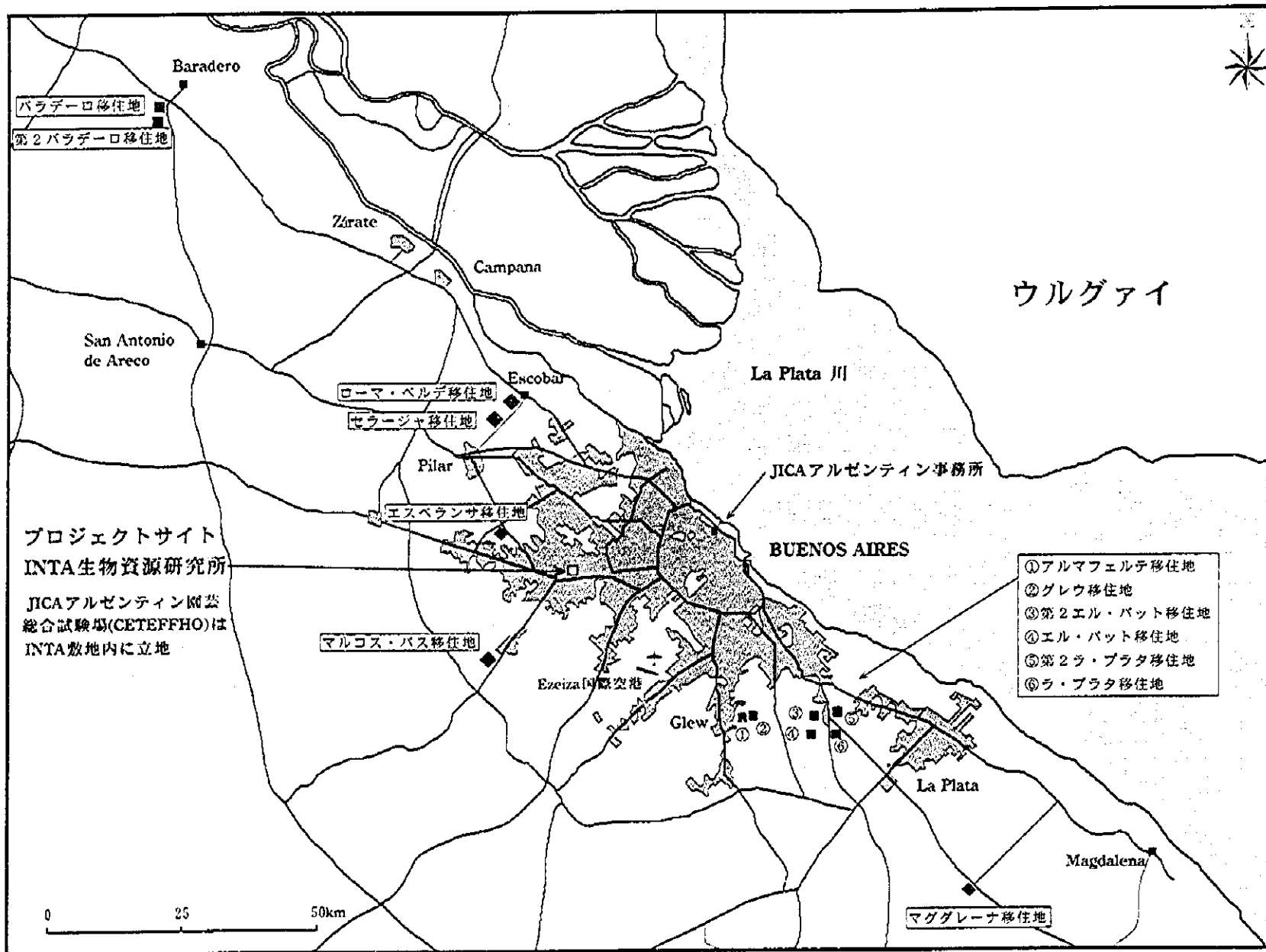
R/D 署名・交換

プロジェクト位置図



プロジェクト位置図





アルゼンティン園芸開発計画プロジェクトサイト

目 次

序 文
写 真
地 図

1. 実施協議調査団の派遣	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的	1
1-2 調査団の構成	2
1-3 調査日程	3
1-4 主要面談者	4
2. 要 約	6
3. 討議議事録の交渉経緯	9
3-1 交渉経緯	9
3-2 討議議事録 (R/D) の訳文	11
3-3 討議議事録覚書 (ミニッツ) の訳文	22
4. プロジェクト実施計画の策定	29
4-1 プロジェクト活動計画	29
4-2 専門家派遣計画	29
4-3 研修員受入計画	30
4-4 機材供与計画	30
4-5 CETEFFHO との連携	31
5. プロジェクト実施上の留意点	33
5-1 実施体制	33
5-2 暫定実施計画案	35
6. 関係機関との協議概要	36

付属資料

1. 討議議事録 (R/D) 英文	43
2. 討議議事録覚書 (M/D) 英文	55
3. 討議議事録 (R/D) 西文	63
4. 討議議事録覚書 (M/D) 西文	77
5. 実施機関組織図	85
6. 供与機材リスト (暫定)	86
7. アルゼンティン側投入コスト一覧表	88

1. 実施協議調査団の派遣

1-1 調査団派遣の経緯と目的

(1) 要請の背景

アルゼンチンの伝統的産業は肥沃な国土を生かした農牧業であり、GDP の約5%、輸出総額の約60%を第一次産品及び農牧加工品が占めている。農牧業の就労人口は、総労働人口の約13%である。

アルゼンチンでは、大規模農業経営（穀物、畜産等）による輸出拡大を図る一方、経済開発5か年計画「成長するアルゼンチン」（1995年～99年）においては、中小規模農家の農産物の品質改善、生産の多様化、そのための技術者育成及び技術の改善・普及を重点目標としてあげている。

恵まれた自然環境を利用した大規模農場経営によって生産される農牧産品の輸出が近年増加傾向にあるが、園芸産品については、近隣国からの輸入が増加し、中小規模農民へ影響を及ぼしている。

特に花卉園芸については、近隣国からの輸入が増加していることから、アルゼンチンにとっては自国産による国内需要の充足が課題となっている。しかしながら、自国内に豊富な花卉遺伝資源を有しているにもかかわらず、その資源を活用し育種、栽培技術を改善するための国立研究機関、大学などの専門機関が未整備なため、花卉農家での需要にあった品種の生産促進が進んでいない。このためアルゼンチン政府は、1989年より花卉園芸に係る委員会「花卉・観賞植物分科委員会」を設置し、花卉品種改良、栽培技術改善の必要性を表明してきた。

これに対して我が国は、アルゼンチン在住の日系移住者の営農支援を目的とした国際協力事業団（JICA）直営の園芸総合試験場（CETEFFHO）で、花卉園芸分野における先進的役割を果たしてきた。

係る状況の下、アルゼンチン政府は花卉に関する試験研究機関の体制整備、技術者の育成が急務と判断し、日本政府に対し、自生種の遺伝資源の利用開発、技術者育成を通じた花卉栽培技術改良に係るプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

(2) 基礎調査団の派遣

上記要請を受けて、JICA は、1997年9月に基礎調査団を派遣し、要請背景及び詳細内容、園芸農業振興政策の現状、園芸農業の現状、施設園芸技術の現状及び病害虫対策など技術的問題点の確認、園芸関係の試験研究機関の活動状況、研究体制などの現状及び問題点の確認、日系人を通じた技術協力の可能性の検討、園芸農産物の流通機構、市場取り引きの現状など

について調査し、我が国が協力可能な技術分野の検討に必要な基礎的情報を収集するとともに、プロジェクト実施の必要性及び妥当性を確認した。

(3) 事前調査団の派遣

さらに、1998年8月に事前調査団を派遣し、アルゼンティンにおける花卉生産の現状と問題点、同国の開発計画などにおける本プロジェクトの位置づけ（上位計画との整合性）、日本の他の協力との関連、第3国・国際機関の協力及びプロジェクト実施体制、支援・協力体制、概要について調査した。この結果、プロジェクト活動を「花卉素材の探索・収集・評価」及び「花卉育種に係る技術研究・開発」とし、「栽培技術分野」は従来どおり CETEFFHO が主体となって実施していくこととなった。

(4) 実施協議調査団の派遣

本実施協議調査団は、基礎調査及び事前調査の結果を踏まえ、アルゼンティン園芸開発計画を実施するための協力基本計画を討議議事録（R/D）に取りまとめ、暫定実施計画（TSI）を策定し、またプロジェクト実施運営上の懸案事項に関しては、アルゼンティン側と協議し、必要に応じてミツ（M/D）に取りまとめ、署名・交換することを目的とした。

主な協議事項は以下のとおりである。

- 1) R/D 署名・交換
- 2) TSI 策定
- 3) アルゼンティン国政策レベルでの花卉園芸分野の支援確認
- 4) 新品種創出に係る知的所有権の取り扱いの確認
- 5) 国立農牧技術院（INTA）内における花卉研究部門創設の確認
- 6) プロジェクト開始促進業務
 - ① 供与機材リスト作成、カンクーパート配置計画、専門家受入体制整備、必要予算確保、公式要請書早期取りつけ
 - ② CETEFFHO との連携促進

1-2 調査団の構成

分野	氏名	所属
団長／総括	小西 國義	岡山大学名誉教授
花卉育種／花卉素材評価	國分 尚	千葉大学園芸学部生物生産科学科助手
協力計画	横島賢太郎	国際協力事業団農業開発協力部特別嘱託

1-3 調査日程

平成10年11月29日から平成10年12月10日まで（12日間）

日順	月日	曜日	時間	調査内容
1	11/29	日	21:00	往路移動 成田発→ (JL-061)
2	30	月	13:40 18:00	ブエノスアイレス着 (AR-1411) JICA 事務所/アルゼンチン園芸総合試験場 (CETEFFHO) 関係者打合せ
3	12/1	火	10:00 11:30 15:00	農牧水産食糧庁表敬 在アルゼンチン日本国大使館表敬 国立農牧技術院 (INTA) 表敬・調査事項打合せ
4	2	水	10:00 14:00 15:00 21:00	INTA / 天然資源研究センター (CIRN) 生物資源研究所視察 CETEFFHO 視察・協議 INTA 協議 花卉市場視察
5	3	木	09:00 11:00 15:00	花卉園芸組合役員：意見交換 クローニン研究所視察 花卉・観賞植物分科委員会：意見交換
6	4	金	10:00 11:20 13:50 15:00	エスコバル地域：久木 Violeta 園 (バラ切花、ミニバラ鉢物栽培) 視察 ：Naturalis 共同出荷場視察 ローマ・ベルテ移住地：玉置昭雄園 (観葉植物栽培) 視察 ：細川 Roberto 園 (ラン培養、栽培) 視察
7	5	土		資料整理
8	6	日		資料整理
9	7	月	10:00 11:00 12:30 14:30	INTA 最終協議 / ミック署名・交換 在アルゼンチン日本国大使館報告 外務省国際協力局表敬・報告 JICA 事務所報告
10	8	火	18:15	復路移動 ブエノスアイレス発→ (RG-911)
11	9	水	01:05	〃 サパト発→ (JL-063)
12	10	木	13:15	成田着

1-4 主要面談者

<アルゼンティン側>

(1) 農牧水産食糧庁

長 官

Dr. Gumersindo F. ALONSO

(2) 国立農牧技術院 (INTA)

副総裁

Ing. Agr. Luis Maria FIRPO BRENTA

国際事業部長

Ing. Agr. Martin F. NAUMANN

(3) INTA カステラー

天然資源研究センター (CIRN)

1) 所 長

Dr. Carlos SCOPPA

2) 生物資源研究所 (Instituto de Recursos Biologicos)

所 長

Ing. Agr. Enrique SUAREZ

ゾーンバンク室長

Ing. Agr. Noga ZELENER

データベース・ゾーンバンクネットワーク担当

Ing. Agr. Julio TILLERIA

(4) 花卉・観賞植物分科委員会メンバー及び出席者

ブエノスアイレス中央市場公社総裁・委員会座長

Ing. Agr. Miguel Angel FERRE

アルゼンティン花卉組合 支配人

Dra. Alicia Mabel GIACOMINI

アルゼンティン花卉組合 理事

Sr. Federico JOHN

農牧水産食糧庁 花卉担当

Ing. Agr. Esteban BARREIRO

国立食品品質衛生検査書 エイボ空港支所担当

Ing. Agr. Jorge BORDIGONI

アルゼンティン苗木業者協会 監査

Sr. Leonardo WOLF

(5) アルゼンティン花卉組合

会 長

Sr. Augusto Palilo CABRAL

理 事

Sr. Federico JOHN

支配人

Dra. Alicia Mabel GIACOMINI

幹 事

Sr. Jose Molina LOPEZ

会 計

Sr. Jorge Oliveira MARQUES

副会計

Sr. Daniel MARTINEZ

(6) グーウイン研究所

研究員

Ing. Agr. Nelida BACIGALUPO

"

Ing. Agr. Roberto KIESLING

"

Ing. Agr. Rosa GUAGLIANONE

研究員

Ing. Agr. Alejandro ESCOBAR

(7) 日系移住者：花卉園芸農家

1) エスコバル地域

久木 Violeta (バラ栽培)

2) Naturalis 共同出荷場

広瀬 哲哉 (鉢物栽培)

長内 範昌 (鉢物栽培)

3) ローマベルデ 移住地

玉置 昭雄 (観葉植物栽培)

日系農業者団体連絡協議会 (日農協) 会長

細川 Roberto (ラン培養、栽培)

(8) アルゼンチン外務省

国際協力局二国間協力部公使

Sra. Norma N. de DUMONT

国際協力局二国間協力部日本担当官

Dra. Andrea de FORNASARI

<日本側>

(1) 在アルゼンチン日本国大使館

参事官

吉村 桂人

一等書記官

青木 保男

(2) 国際協力事業団アルゼンチン事務所

所長

大沢 尚正

次長

野末 雅彦

現地職員

山本 Patricia

(3) 国際協力事業団アルゼンチン園芸総合試験場 (CETEFFHO)

場長

遊佐 健輔

JICA 日系社会専門家 (花卉育種)

有隅 健一

〃 (花卉栽培)

稲葉 久仁雄

現地研究員 (花卉育種担当)

生駒 浩樹

〃 (花卉栽培担当)

森重 Daniel

(4) 通訳

藤園 無辺

2. 要 約

本実施協議調査団は、アルゼンティン園芸開発計画について技術協力の詳細を策定するため、1998年11月29日から同12月10日までの日程でアルゼンティン国を訪問した。調査団は、基礎調査及び事前調査の結果を踏まえ、アルゼンティン国立農牧技術院 (INTA) の関係者と最終協議を重ねたのち合意に達し、12月7日に小西団長と INTA 副総裁 (総裁代行) L. M. FIRPO BRENTA 氏が討議議事録 (R/D) 及び討議議事録覚書 (M/D : TSI、PDM、Recommendation) の署名・交換を行った。協議結果の概要は以下のとおりである。

なお調査団は、アルゼンティン国農牧水産食糧庁長官 F. ALONSO 氏、花卉・観賞植物分科委員会 (委員会座長 FERRE 氏 = 前 INTA) を訪ね、本プロジェクトの意義を説明して、協力を要請した。

(1) R/D、M/D の概要

1) プロジェクト名 : アルゼンティン園芸開発計画

2) プロジェクト目的 : アルゼンティンに原生する植物の新花卉としての素材化及び実用品種の育成等、育種技術に関する研究分野の強化

3) プロジェクト実施機関 : 国立農牧技術院天然資源センター-生物資源研究所

Institute of Biological Resource, Research Center for Natural Resource (IRB/CIRN)、National Institute for Agricultural Technology (INTA)

4) 実施場所 : IRB/CIRN、ブエノスアイレス州ウーリンガム市 (通称INTAカステール)

5) 連携機関 : JICA アルゼンティン園芸総合試験場 (CETEFFHO)

CETEFFHO は INTA カステールの敷地内にあり、アルゼンティンにおける花卉栽培技術の改善について20年間の経験を持っている。その知識と経験を生かして、特に植物材料の栽培と育成品種の評価の面で支援する。

6) 実施機関 : 1999年5月1日から5年間

7) 協力活動 :

①アルゼンティン国に原生する花卉素材の探索・収集・評価・保存

②アルゼンティン国における花卉の効率的育種技術の研究

③実用的花卉品種育成に係る技術開発

8) 日本側の取るべき措置 :

①長期専門家派遣 : 4名

②短期専門家派遣 : 必要数

③研修員受入 : 年間2~3名程度

④機材供与：5年間で1億円程度

9) アルゼンティン国側の取るべき措置：

① Project Director, Project Manager, Full-time Counterpart 及び管理要員の配置

②建物、施設の提供

③カーコストの負担

10) 合同委員会の設置：INTA 総裁を議長、INTA 局長を副議長とする合同委員会を設置し、少なくとも年一度、また必要に応じて開催することとする。

①アルゼンティン側委員：CIRN 所長、Project Manager (IRB 所長)、INTA 国際事業部代表者、各研究活動分野の代表者

②日本側委員：Chief Advisor, Project Coordinator、専門家、CETEFFHO 場長、JICA アルゼンティン事務所長など

③オブザーバー：在アルゼンティン日本大使館員、その他議長推薦者

(2) 特記すべき事項

1) 花卉研究部門の創設

アルゼンティン国には、花卉育種の研究部門はもとより、花卉生産に関する研究部門は大学にも試験場にもなく、花卉の研究者は CETEFFHO の現地採用職員を除けば皆無に近い。このプロジェクトを実施するにあたっては、INTA カスタル内には研究者を養成して研究部門をつくる必要がある。このことについては、INTA は要員として現在 CETEFFHO で研修している1名のほかに4名を予定していること、その4名は全国から公募すること、プロジェクト開始前に採用し、任命と同時に研究部門が創設されて、その要員がプロジェクトのコーディネーターになること、プロジェクト終了時には研究部門の要員は更に増員される見通しであること、などの説明があり、調査団はそれを了承した。

2) 専門家の執務室、実験室、簡易温室など

予定されている施設を視察した。執務室や実験室の広さは必ずしも十分とはいえないが、INTA の他の研究者たちのそれよりは狭いわけではなく、やむを得ないものと判断された。

また、植物材料を栽培する簡易温室については、既存のものほかに新設することが必要であると判断されたが、生物資源研究所所長 SUAREZ 氏と協議して、INTA 予算だけでなく、ほかに何らかの方法で費用を捻出して設置することも検討するよう依頼した。その方法の一つとして、アルゼンティン国内の花生産者あるいは温室建設業者からの寄付も考えられることを示唆しておいた。

(3) 所感

INTA やダーウイン研究所を視察して、アルゼンチン国内に生育する植物の採集と分類は進んでおり、分類額や形態学のレベルはかなり高いと判断された。しかしながら、移住国国民の通例として、諸外国特に本国にばかり目が向き、農業・農学関係者は自国に原生する植物の利用については、従来全く考えないできている。INTA 関係者たちはそれを十分に反省しており、アルゼンチンに原生する植物の新花卉としての利用に意欲を燃やしている。また、花卉を対象とした研究者がいなくても、他の作物の遺伝・育種関係の研究者はおり、その研究レベルも低くないので、このプロジェクトは必ず成功するものと確信できる。

3. 討議議事録の交渉経緯

3-1 交渉経緯

1997年9月の基礎調査及び1998年8月の事前調査の結果に基づき、日本側が事前に用意した討議議事録(R/D)案及び討議議事録覚書(M/D)案を基に協議を行ったが、プロジェクト基本計画については前期調査を通じて十分に検討されていたので、アルゼンティン側関係者との再確認を経て最終的な合意を得た。また、さらに詳細な事項については日本側が用意した案を基に協議を行い、追加・修正を加えたうえ、双方で確認し署名を行った。

協議は終始友好的に行われ、「本プロジェクトにおいて花卉分野の人材が育成されることを望んでおり、アルゼンティンの植物資源を保全するとともに、花卉産業を発展させていきたい」とのアルゼンティン当局関係者のコメントからも、アルゼンティン側の本プロジェクトに対する強い熱意が感じ取れた。

R/D及びM/Dに係る協議内容を要約すると以下のとおりである。

(1) 日本側の取るべき措置

日本側の取るべき措置は専門家の派遣、機材供与、研修員の受入れなどであり、特に大きな問題もなく、合意を得た。

(2) アルゼンティン側の取るべき措置

アルゼンティン側の取るべき措置は、カウンターパートの選任、試験研究を行うための土地、建物及び付帯施設の提供、プロジェクトの円滑な開始と実施のために必要な安定的予算確保の措置であり、特に大きな問題もなく合意を得た。

また、アルゼンティン政府の花卉産業に対する支援について農牧水産食糧庁長官より「花卉産業に対する国の支援の必要性については十分承知している。INTAとも連携をとりつつ次期国家開発計画に『花卉』を盛り込むよう努力する」旨発言があった。

(3) マスタープラン

事前調査時のミツと比べて特に大きな変更点はないが、5の項目に CETEFFHO の当該計画における位置づけを追加した(R/Dの附表1参照)。

(4) プロジェクト外管理

プロジェクトの総括管理責任を負うプロジェクトディレクターとして INTA 局長を、運営及び技術的事項に係る責任を負うプロジェクトマネージャーとして INTA カステル生物資源研究所所長を任命する(実施機関組織図：付属資料5参照)とともに、両国の関係者で組織される合同委員会を設置することとした。

(5) プロジェクト外実施期間

プロジェクト外の開始日を1999年5月1日とし、期間を5か年間とした。

(6) プロジェクト外組織図

プロジェクト外の組織図（R/D の付表Ⅶ参照）を合同で作成し、プロジェクト外の実施を図ることとした。

(7) プロジェクト外・デザイン・マトリックス（PDM）

プロジェクト外・デザイン・マトリックスを合同で作成（M/D の付表Ⅱ参照）し、進捗状況及びモニタリングの指針とすることとした。

3-2 討議議事録 (R/D) の訳文

アルゼンティン園芸開発計画のための
日本の技術協力に関する日本側実施協議調査団と
アルゼンティン共和国関係当局との討議議事録

国際協力事業団が組織し、岡山大学名誉教授・小西國義氏を団長とする日本側実施協議調査団（以下「調査団」と称する）は、アルゼンティン園芸開発計画についてプロジェクト方式技術協力の詳細を策定するため、1998年11月30日から1998年12月8日の間アルゼンティン共和国を訪問した。

アルゼンティン共和国滞在中、調査団はアルゼンティン共和国関係当局と上記計画の有効な実施のため、両国政府が取るべき必要な措置について意見を交換、さらに一連の討議を行った。

討議の結果及び1979年10月11日に東京で締結された日本政府とアルゼンティン共和国間の技術協力協定（以下「協定」と称する）の合意に基づき、調査団及びアルゼンティン共和国関係当局は、付属文書に掲げた諸事項を両国政府に勧告することに同意した。

本文はスペイン語及び英語にてそれぞれ作成され、スペイン語及び英語とも同一である。万が一、解釈に相違が生じた場合は、英語を重んじるものとする。

ブエノスアイレス、1998年12月7日

小西國義
団長
実施協議調査団
国際協力事業団
日本国

Ing. Agr. Luis Maria FIRPO BRENTA
副総裁
国立農牧技術院
アルゼンティン共和国

付 属 文 書

I. 両国政府の協力

1. アルゼンティン政府は、日本国政府と協力して、園芸開発計画（以下「当該計画」と称する）を実施する。
2. 当該計画は、付表 I の基本計画に基づいて実施される。

II. 日本国政府の取るべき措置

日本国政府は、日本国において施工されている法律・規則及び協定の条項 III の規定に従い、日本国政府は、日本国政府の支出によって国際協力事業団（以下「JICA」と称する）の通常の技術協力計画の手続きにより、JICA を通じて以下の措置を取るものとする。

1. 日本人専門家の派遣

日本国政府は、付表 II に掲げる日本人専門家の役務を提供する。協定の条項 IX の規定が上記専門家に適用される。

2. 機材の供与

日本国政府は、付表 III に掲げる当該計画の実施に必要な機械、機材及びその他の資材（以下「機材」と称する）を供与する。協定の条項 VII-1 の規定が上記機材に適用される。

3. 研修員の受入

日本国政府は、日本における技術研修のため、当該計画に係るアルゼンティン人を日本に受入れる。

III. アルゼンティン政府の取るべき措置

1. アルゼンティン政府は、当該計画の主体的運営及び自立性を確保するため、アルゼンティンにおける関係当局、受益者集団及び団体を積極的に取り組むべき、日本の技術協力実施中及び終了後、必要な措置を取る。
2. 協定の条項 IV の規定に従い、アルゼンティン政府は、日本の技術協力の結果として、アルゼンティン人によって得られた技術及び知識が、アルゼンティンの経済及び社会開発に貢献することを保証する。
3. 協定の条項 V 及び VI の規定に従い、アルゼンティン政府は、上記 II-1 項に掲げる専門家とその家族に対し、アルゼンティン内における特権、免除及び便宜を付与する。
4. 協定の条項 VII の規定に従い、アルゼンティン政府は、上記 II-2 のもとに JICA によって供与される機材及び上記 II-1 に掲げる日本人専門家によって携行される資機材の受取りと使用に必要な措置を取る。
5. アルゼンティン政府は、アルゼンティン人が日本における技術研修から得た知識及び経験が、当該計画

の実施上、有効的に使用されることを保証するため、必要な措置を取る。

6. 協定の条項V-(c)及び(f)の規定に従い、アルゼンティン政府は、付表IVに掲げるアルゼンティン人のインターパート及び事務職員の役務を提供する。
7. 協定の条項V-(a)及び(b)の規定に従い、アルゼンティン政府は、付表Vに掲げる土地、建物及び付帯施設を提供する。
8. アルゼンティンにおいて施工されている法律及び規則に従い、アルゼンティン政府は、II-2のもとでJICAによって供与される機材の他に当該計画の実施に必要な機械、機材、道具類、車両、工具類、スペアパーツ及び他の資機材を、自己の負担において供給及び交換するために必要な措置を取る。
9. アルゼンティンにおいて施工されている法律及び規則に従い、アルゼンティン政府は、当該計画の実施に必要な運営費用を調達するために必要な措置を取る。

IV. 当該計画の管理

1. 国立農牧技術員（以下「INTA」と称する）局長はダイレクターとして、当該計画の管理及び実施について全責任を負う。
2. INTA 天然資源研究センター内、生物資源研究所（以下「IRB/CIRN」と称する）所長はマネージャーとして、当該計画の運営及び技術面の事項について責任を負う。
3. 日本側アドバイザーは、ダイレクター及びマネージャーに対し、当該計画実施に係る事項について、必要な勧告及び助言を行う。
4. 専門家は、アルゼンティン側インターパートに対し、当該計画の実施に関する技術的事項について、必要な技術的指導及び助言を与える。
5. 当該計画の技術協力を効果的かつ成功裡に実施するため、付表VIに掲げる機能を有し、かつ当該委員で構成される合同委員会を設置する。
6. 当該計画の組織図は、付表VIIに掲げるものとする。

V. 合同評価

当該計画の達成度を評価するため、協力期間の中間時及び協力期間終了前6か月の間に、JICA及びアルゼンティン関係当局を通して、両国政府は合同で評価を行う。

VI. 日本人専門家に対する請求

協定の条項VIIIの規定に従い、アルゼンティン政府は、日本人専門家のアルゼンティン内における当該計画の技術協力の遂行に起因し、またはその遂行中に、もしくはその遂行に関連して専門家に対する請求が生じた場合には、専門家の故意または重大な過失による場合を除き、その請求に対し責任を負う。

VII. 相互協議

両国政府は、本付属文書から生ずる、または本付属文書に関連する重要事項について相互協議を行う。

VIII. 当該計画のための理解及び支援の促進措置

当該計画に対する7ルベソイン国民の支援促進のため、7ルベソイン政府は、自国内に当該計画を周知させる妥当な手段を行使する。

IX. 協力期間

本付属文書に基づく当該計画の技術協力期間は1999年5月1日より5年間とする。

付表 I 基本計画

1. 上位目標：

花卉園芸作物の品質が改善され、花卉園芸農家の所得が向上する。

2. 当該計画の目標：

アルゼンティン原生植物の新花卉としての素材化及び実用品種育成など育種技術に関する基礎的研究分野が強化される。

3. 当該計画の期待される成果：

- (1) 豊富な植物遺伝資源を活用した新花卉の素材化及び保存分野の研究者が養成される。
- (2) アルゼンティンの気候・風土にあった花卉育種理論に基づく効率的育種技術が確立する。
- (3) 実用的花卉品種育成に係る技術が開発される。

4. 当該計画の活動：

(1) アルゼンティンに原生する花卉素材の探索・収集・評価・保存

アルゼンティンの山野に原生する主要な花卉を対象とし、新形質の導入のための素材化技術、そのための特性解明、評価、遺伝資源の保存などの手法を開発する。

(2) アルゼンティンにおける花卉の効率的育種技術の研究

交配・採種法、種子生理、生育・開花能力の検定、特殊形質の付与など効率的育種技術、理論を開発する。

(3) 実用的花卉品種育成に係る技術開発

アルゼンティンの気候・風土にあった実用的花卉品種の育成技術及び種苗増殖技術を開発する。

5. 当該計画の連携機関：

JICA アルゼンティン園芸総合試験場（以下「CETEFFHO」と称する）は、当該計画の効率的かつ効果的な実施のため、当該計画の活動に係る技術、知識及び付帯施設を提供し、連携機関として活動する。

6. 当該計画のサテ：

ブエノスアイレス州ウーリカム市に位置する、INTA 天然資源研究センター内、生物資源研究所。

付表II 日本人専門家リスト

1. 長期専門家

(1) チーフアドバイザー

(2) 業務調整員

(3) 以下の分野の専門家：

1) 花卉素材評価

2) 花卉育種

注：チーフアドバイザーは、上記技術分野の長期専門家を兼務することがある。

2. 短期専門家

短期専門家は、当該計画の枠内で必要に応じて派遣される。

付表Ⅲ 供与機材リスト

1. 下記の目的で必要とする機材

- (1) アルゼンティンに原生する花卉素材の探索・収集・評価・保存
- (2) アルゼンティンにおける花卉の効率的育種技術の開発
- (3) 実用的花卉品種育成に係る技術開発

2. 当該計画の効果的かつ円滑な実施に必要であると日本及びアルゼンティン側関係者が相互に認識したその他の機械、機材、関係文献、車両及び資材

付表Ⅳ 日本人側カウンターパート及び事務職員リスト

1. 当該計画ディレクター

2. 当該計画マネージャー

3. 以下の分野の専属カウンターパート

1) 花卉素材評価

2) 花卉育種

4. 管理職員

1) 管理職員

2) 秘書

3) 運転手

5. 他の必要な職員

付表Ⅴ 土地、建物及び付帯施設リスト

1. 当該計画実施に必要な土地、建物及び付帯施設
2. 機材の設置及び保管に必要な部屋及びスペース
3. 日本人チーフアドバイザー、調整員、及び専門家のための執務室及び必要な施設
4. 必要に応じ、相互の合意による他の施設

付表VI 合同委員会

1. 合同委員会の機能

合同委員会は、次の機能を持つものとする。

- (1) 本討議議事録の枠内で暫定実施計画に沿って活動計画の年次計画を策定する。
- (2) 技術協力計画全体の進捗及び当該計画の年次計画の達成に関する検討を行う。
- (3) 日本側及びアセアン側が講ずる処置について、検討を行う。
- (4) 技術協力計画から生ずる、または関連する主な課題を検討し、意見交換を行う。
- (5) 両国政府に対し、必要な勧告を行う。

2. 構成

(1) 委員長

INTA 総裁

(2) 副委員長

INTA 局長

(3) 委員

1) アセアン側

- ① INTA 天然資源研究センター所長
- ② 当該計画マネージャー
- ③ INTA 国際協力部代表者
- ④ 当該計画の各研究活動の代表者

2) 日本側

- ① チーフアドバイザー
- ② 業務調整員
- ③ 当該計画専門家
- ④ 必要に応じ JICA が派遣する他の日本人専門家及び関係者
- ⑤ JICA アセアン園芸総合試験場場長
- ⑥ JICA によって合同委員会へ派遣された調査団員
- ⑦ JICA アセアン事務所代表者

3) オブザーバー

在アセアンの日本大使館員は、オブザーバーとして委員会に出席することができる。

注：委員長が指名する者は合同委員会のオブザーバーになることができる。

4) 開催周期

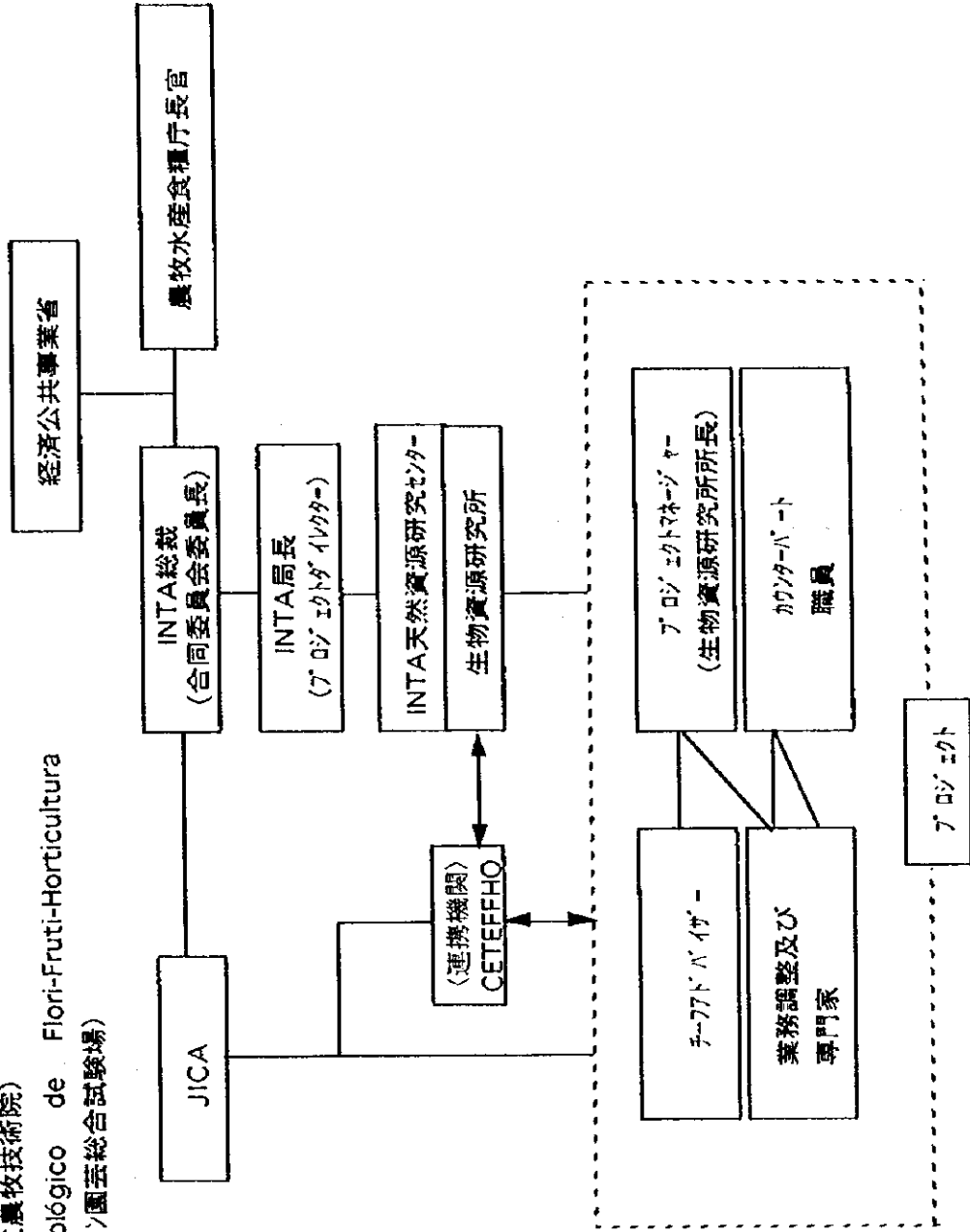
合同委員会は、少なくとも年1回及び必要が生じた時に開催する。

付表VII

当該計画組織図

INTA : Instituto Nacional de Tecnología Agropecuaria
(7月1日付国立農牧技術院)

CETEFFHO : Centro Tecnológico de Flori-Fruti-Horticultura
(JICA7月1日付園芸総合試験場)



3-3 討議議事録覚書（ミニッツ）の訳文

アルゼンティン園芸開発計画に関する討議議事録覚書

日本側実施協議調査団（以下「調査団」と称する）とアルゼンティン共和国関係当局は、アルゼンティン園芸開発計画（以下、「当該計画」と称する）の討議議事録に関連した当該計画の実施に係る一連の討議を行った。

討議の結果、2か国の関係者は付属資料の大筋を確認した。確認事項は、双方の関係者により双方の政府に勧告される。付属資料の事項は、当該計画実施に必要な予算が確保されることを前提として討議され、当該計画の実施段階において必要が生じた場合、討議議事録の枠内で変更されるものとする。

本分はスペイン語及び英語にてそれぞれ作成され、スペイン語及び英語とも同一である。万が一、解釈に相違が生じた場合は、英語を重んじるものとする。

ブエノスアイレス、1998年12月7日

小西國義
調査団長
実施協議調査団
国際協力事業団
日本国

Ing. Agr. Luis Maria FIRPO BRENTA
副総裁
国立農牧技術院
アルゼンティン共和国

付 属 文 書

1. 暫定実施計画 (TSI)

双方の関係者は付表 I に示すように当該計画の暫定実施計画を共同で策定した。

2. プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

双方の関係者は付表 II に示すように、当該計画のプロジェクト・デザイン・マトリックスを共同で策定した。

PDM は、当該計画の目標、成果、活動を規定し、当該計画の到達すべき内容及びそれらの効果的実施体制の程度を明確化するものである。

PDM は、当該計画の活動及び成果の監視に使われる可能性もある。

PDM は、外部条件の変化に応じて、合同委員会の承認のもとに、柔軟に訂正されることもあり得る。

3. 当該計画実施のための取るべき措置

当該計画の円滑かつ効果的実施のため双方の関係者は、付表 III に示される必要な措置を取ることに同意した。

付表リスト

付表Ⅰ 暫定実施計画 (TSI)

付表Ⅱ プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

付表Ⅲ 双方によって策定された当該計画実施のための取るべき措置

付表Ⅰ 暫定実施計画

1. 年次計画

当該計画の活動	当該計画年度				
	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度
I. アルゼンティンに原生する花卉素材の探索・収集・評価・保存					
II. アルゼンティンにおける花卉の効率的育種技術の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・生態育種 ・稚樹開花性に関する育種 ・環境耐性（特にNa耐性）に関する育種 ・倍数性育種 					
III. 実用的花卉品種育成に係る技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・外国からの既成品種の導入と同一種のアルゼンティン産との比較試験 ・既存の商業花卉品種への潜在的な花卉能力を有するアルゼンティン原産花卉の新形質の導入 ・組織培養による増殖技術の開発 					

2. 技術協力計画

投入項目	当該計画年度				
	1年度	2年度	3年度	4年度	5年度
1. 日本側					
(1) 長期専門家					
1) チーフアドバイザー					
2) 業務調整員					
3) 各分野の専門家					
① 花卉素材評価					
② 花卉育種					
(2) 短期専門家		(必要に応じて派遣)			
(3) アメーニン側カウンターパートの日本研修					
(4) 機材供与					
(5) 調査団の派遣		(必要に応じて派遣)			
2. アメーニン側					
(1) カウンターパート及び管理要員の配置					
1) プロジェクトディレクター					
2) プロジェクトマネージャー					
3) 日本人専門家のカウンターパート					
4) 管理職員					
5) 他の必要な職員					
(2) 土地、建物、施設及び機材の提供					
1) 日本側チーフアドバイザー及び他の専門家に必要な事務室と付帯施設					
2) 試験棟と付帯施設					
3) 必要であると相互に合意したその他の施設					
(3) 当該計画の運営経費の拠出					

付表II プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)

プロジェクトの要約	指 標	検 証 手 段	外 部 条 件
<p>I. 上位目標</p> <p>花卉園芸作物の品質が改善され、花卉園芸農家の所得が向上する。</p>	<p>1. 花卉園芸農家の所得が1999年の平均所得より向上する。</p> <p>2. ブラジルの国全体で花卉生産量が1999年の生産量より増加する。</p>	<p>1. ブラジルの国統計資料、園芸年報</p> <p>2. ブラジルの国統計資料、園芸年報</p>	<p>A. ブラジルの国政府の花卉園芸支援政策が維持される。</p> <p>B. INTA が研究の成果を花卉農家に還元する。</p> <p>C. 花卉園芸流通体制が整備される。</p>
<p>II. プロジェクト目標</p> <p>ブラジルの国原生植物の新花卉としての素材化及び実用品種育成など育種技術に関する基礎的研究分野が強化される。</p>	<p>1. カンテラートによる花卉育種に係る研究論文が園芸学会で発表される。</p> <p>2. カンテラートが独自で新花卉品種を創出できる。</p>	<p>1. 園芸学会発表要旨</p> <p>2. 園芸学会発表要旨、INASE年報</p>	<p>D. 組織されたブラジルの国側専門家チーム活動を継続する。</p>
<p>III. 成果</p> <p>1. 新花卉の素材化及び保存分野の研究者が養成される。</p> <p>2. ブラジルの国の気候・風土にあった花卉育種理論に基づく効率的育種技術が確立する。</p> <p>3. 実用的花卉品種の育成及び種苗増殖技術が開発される。</p>	<p>1-1～1-3. 自生花卉遺伝資源に関する情報が蓄積する。</p> <p>1-4. 花卉素材の保存手法が確立する。</p> <p>2-1～2-4. 品種系統の特性一覧表が完成する。</p> <p>2-1～2-4. 育種試験基準が完成する。</p> <p>3-1. 地域適応性検定及び特性検定の調査基準が完成する。</p> <p>3-2～3-3. プロジェクトの進捗状況によっては、新品種が創出され、新品種の種苗が作られる。</p>	<p>1-1～1-3. 集積された情報、研究レポート</p> <p>1-4～3-3. プロジェクト報告書、研究レポート、発行紙</p>	<p>E. ブラジルの国側により、花卉育種研究分野の専門家チームが組織される。</p> <p>F. 花卉育種に係る試験研究のための施設環境が整う。</p>
<p>IV. 活動</p> <p>1-1. 花卉素材の採集</p> <p>1-2. 花卉素材の特性解明</p> <p>1-3. 花卉素材の評価</p> <p>1-4. 花卉遺伝資源の保存</p> <p>2-1. 生態育種</p> <p>2-2. 雑樹園花性育種</p> <p>2-3. 環境耐性育種</p> <p>2-4. 倍数性育種</p> <p>3-1. 国内外の花卉品種の比較試験</p> <p>3-2. 商業花卉への原生種の新形質の導入</p> <p>3-3. 種苗増殖技術の開発</p>	<p>V. 投 入</p>		<p>G. ブラジルの国の気象条件が大きく変動しない。</p> <p>H. ブラジルの国における資機材の通関・輸送手続きの遅れがない。</p>
	<p>日 本 側</p>	<p>ブラジルの国側</p>	
	<p>1. 専門家派遣</p> <p>2. 研修員受入</p> <p>3. 機材供与</p>	<p>1. カンテラート及び管理委員の配置</p> <p>2. 土地・建物・付帯施設の提供</p> <p>3. コミュニティの負担</p>	
	<p>注：詳細は R/D マスタープラン参照</p>		
	<p><前提条件></p>		
	<p>1. ブラジルの園芸総合試験場 (CETEFHIO) の活動が継続する。</p>		

付表Ⅲ 当該計画実施のための双方関係当局による勧告

1. アルゼンチン政府の花弁産業に対する支援 :

アルゼンチン関係当局は、日本側の協力のもと、アルゼンチン側の主導により運営される当該計画の効果的な成果が期待されることを考慮し、アルゼンチン花弁産業は国家政策レベルにおいて堅固に支援される旨明言した。

上記のアルゼンチン政府の国家的支援は、次期国家開発計画（2000～2004年）に反映されるべきである。

2. 当該計画の連携機関としての CETEFFHO の協力 :

両国は、当該計画の効果的及び効率的な実施のために、CETEFFHO の協力が必要不可欠である旨合意した。

CETEFFHO は、関係分野の知識及び技術を最大限当該計画に提供する。また、機材の一部は CETEFFHO に設置され、使用される。

3. 新品種の知的所有権 :

当該計画を通じて花弁新品種が創出された場合、INTA は、国立種子局 (INASE) 或いはほかの海外の登録事務所に、INTA/JICA の名称でそれらを公式に登録する旨 INTA により明言された。また、新品種に係る特許権使用料及びその他の収入については、INTA の花弁園芸分野の開発を目的として使用される。

4. INTA における花弁分野の研究組織の創設 :

1998年8月20日、ブエノスアイレスにてアルゼンチン国関係当局と日本側事前調査団の間で調印されたミニニックに基づき、両国は、当該計画実施期間中に INTA 内に花弁園芸に係る研究組織及び専門のワークショップを創設する旨の INTA の計画を再確認した。

5. 当該計画活動の促進 :

当該計画の円滑な開始及び当該計画の促進を考慮し、INTA は、当該計画実施組織として、当該計画期間中の継続的な予算の拠出を確保する。特に、INTA は、当該計画開始2年以内に簡易温室2棟を提供すべきである。

また、INTA は、日本人専門家派遣及び資機材などに係る公式要請書を遅滞なく日本政府に提出することに加え、専属カウンターパートのリストを準備する。

4. プロジェクト外実施計画の策定

4-1 プロジェクト外活動計画

プロジェクト外活動計画は事前調査団報告書の付属資料アゼルバイジャン園芸開発計画活動計画に示したとおりである。

計画については、事前調査団報告書II-3に補足説明のとおりであるが、実施協議調査によって確認された事項について報告する。

(1) アゼルバイジャンに原生する花卉素材の探索・収集・評価・保存

- 1) プロジェクト外は正式に1999年5月から開始し、10月までに INTA やゲウイン研究所などが所蔵する標本と文献データを基に収集計画を作成する。
- 2) 施設については、INTA から冷房つき温室の一部を含む2棟、計200平方メートル程度が提供されることになったので、収集した花卉素材の栽培はここで行う。栽培管理は INTA が担当する。

(2) アゼルバイジャンにおける花卉の効率的育種技術の開発

- 1) 実際の育種においては大量の植物を栽培する必要があるため、その技術の蓄積が豊富である CETEFFHO の温室を利用して行うことが望ましい。
- 2) プロジェクト外で作出される新品種については、できるだけ早く種苗登録をする必要がある。この登録手続きについては、プロジェクト外で調査し、ルティン化することが望ましい。

4-2 専門家派遣計画

(1) 長期専門家

長期専門家は下記の4名を派遣するが、場合によってはチアトバイザーが専門分野を兼任することもある得る。

- 1) チアトバイザー
- 2) 業務調整員
- 3) 花卉素材評価
- 4) 花卉育種

本プロジェクトの目標は育種技術に関する基礎的研究分野の強化であるが、育種を行うためには当然ながら、必要最低限の栽培技術も必要である。特に、プロジェクトの後半は選別過程の植物が急速に増えることが予想される。しかし、メイン伴である INTA 生物資源研究所には現時

点で栽培技術者がいない。そこで、CETEFFHO の日系社会専門家、現地研究員などによる側面支援が求められる。

(2) 短期専門家

短期専門家は必要に応じて、1年に2～3名3か月程度を予算内で派遣する。現時点で必須なのは3年目に購入を計画しているフローリメーター及び高速液体クロマトグラフィーの使用法を指導する専門家である。また、交雑育種の進行状況により、2年目または3年目に胚培養技術を指導する専門家が必要となる。4-3で説明するが、これらの短期専門家派遣に先だつてカウンターパートを日本で指導することにより、効果的な技術移転ができるものと思われる。

アルゼンチンの国土は広大であるため、晩春から初夏にかけての開花最盛期には素材収集のための人手が不足することが予想される。そこで、毎年この時期に短期専門家を派遣して、素材収集の便を図る必要がある。

4-3 研修員受入計画

研修員については、年間2～3名を受入れるものとする。研修の分野については、プロジェクトの進行状況にもよるが、現時点で考えられるものとして、下記の分野での受入れが効果的であると思われる。

- (1) 育種素材の冷凍保存
- (2) 胚珠培養（育種・増殖）
- (3) 栽培育種
- (4) 分析機器（特にフローリメーターと高速液体クロマトグラフィー）の使用法
- (5) 植物遺伝資源データベースの操作法

分析機器の使用法の研修に関しては、供与予定の機器が導入される前にあらかじめカウンターパートに研修を受けさせ、実際に機器が導入される時点で既に操作法に習熟していることが効果的であろう。

受入機関としては事前調査団報告書にもあるように、農林水産省農業生物資源研究所、国立博物館筑波実験植物園、民間の生産施設、その他の試験研究機関などが考えられ、必要に応じて依頼する。

4-4 機材供与計画

付属資料6に供与機材リスト（暫定）を示す。機材供与の予算として、5か年で1億円程度を見込んでいる。プロジェクトの進行状況によっては、この計画、特に2年目以降が変更される可能性がある。

特に優先すべきものとして、1年次に計画している花卉素材探索・収集用の機材があげられる。プロジェクト外の素材探索・収集が順調に始まるためにはこれらの機材が必須であるので、できるだけ便宜を図る。なお、これらの多くは現地調達可能であるか、専門家携行機材として持ち込み可能である。

1年次には、その他一般的な実験機具類と植物遺伝資源データベース関連機材を計画した。INTA 生物資源研究所に所蔵のデータベースは種子在庫管理専用であり、植物の原生地の情報や、栽培中の植物に関する情報は取り扱えないため、このデータベースが別途必要となる。

2年次は種子の保存用機器を中心として計画した。これらについては、INTA 生物資源研究所所蔵の機器との兼ね合いがあるので、更に協議を続ける必要がある。また、分析機器として分光光度計を計画してある。これは、植物体内に存在する化学物質の計測に使用され、今後の育種技術で重要となる化学マーカーの検出に使用される。特に、花の育種で最も重要な要素の一つである花色に関して、従来は色素構成が不明のまま育種されていた。これと、3年次に計上する高速液体クロマトグラフを併用することにより、品種の色素構成が明らかとなり、花色の育種が効率的に行われる。

3年次は2つの分析機器が中心となる。前述の高速液体クロマトグラフとフローサイトメーターである。フローサイトメーターは細胞あたりのDNA量を測定でき、活動計画II-4の倍数性育種には欠かせない測定機器である。

4年次は細胞大量増殖用及び育種プログラムの進行に伴って増加する植物の栽培管理用の機材が中心であり、5年次は育種用分子マーカーの検索に必要なDNAの増殖用機器及び植物の管理用ハードシステムを計画した。ただし、植物の育種は必ずしも計画通りには進まないため、4～5年次の供与機材は流動的である。

4-5 CETEFFHO との連携

現在、INTA を含め、アルゼンティン国内には花卉園芸の専門家がない。そこで、CETEFFHO に20年以上にわたって蓄積された経験・知識を有効活用することがプロジェクト運営上重要であることは、基礎調査団、事前調査団によって指摘されてきたとおりである。ただし、プロジェクトのメインはあくまでもINTA 生物資源研究所であるので、CETEFFHO の役割分担をはっきりさせておく必要がある。

上記活動計画の(1)アルゼンティンに原生する花卉素材の探索・収集・評価・保存に関しては、主にINTAで行うものとする。プロジェクトで収集した原種はINTAの冷房温室(既存)と、プロジェクト期間内に提供される予定の温室で栽培し、妙ウーパートが管理することが望ましい。この場合でも、CETEFFHOは栽培管理に関する助言を与える。また、温室がINTAから提供されるまではCETEFFHOの温室を一時的に利用する。

上記活動計画の（Ⅱ）アルゼンティンにおける花卉の効率的育種技術の開発、および（Ⅲ）実用的花卉品種育成に係る技術開発は、その内容から考えて、少なくともプロジェクトの初期段階では CETEFFHO を中心として展開する必要がある。この場合、評価のために導入する既存品種やプロジェクトで交配した植物など、評価段階の栽培を CETEFFHO で行い、プロジェクトを支援する。カンパニに対する栽培管理や交配の技術指導も CETEFFHO で行うことが望ましい。

さらに、INTA が提供する予定の温室の増改築や仕様の決定に関しても CETEFFHO が支援する。特に、日系農家による労働力の提供などは、将来の INTA・CETEFFHO と日系農家の良好な関係を築くうえでも望ましいので、CETEFFHO が中心になって日系農家に依頼する。

5. プロジェクト実施上の留意点

5-1 実施体制

(1) プロジェクト活動

本プロジェクトは、INTA 生物資源研究所をメイン、CETEFFHO を連携協力機関として、互いに連携を取りつつ、協力して試験研究を推進していく。

現在、CETEFFHO で行っている花卉育種分野の研究課題の一部をプロジェクトが引き継ぎ、花卉栽培分野に関しては、CETEFFHO において花卉栽培の派遣専門家（日系社会専門家）による指導が継続して行われる。

(2) 日本側が取るべき措置

1) 専門家派遣：

①長期専門家は、下記の4名が必要であり、アセ側と合意した。但し、チャドバイザーは専門家分野を兼任できる旨、アセ側と合意した。

- ・チャドバイザー
- ・業務調整員
- ・花卉素材評価
- ・花卉育種

花卉育種分野の長期専門家は、現在 CETEFFHO にて日系社会専門家として勤務中の有隅健一専門家（現在の任期は1997. 2. 19～2000. 2. 18）をプロジェクト開始と同時に当該計画の専門家へ振り替えることとする。

②短期専門家についてはプロジェクト開始以降、専門家チームの意見を参考にしながら、必要に応じ予算の範囲内で年間2～3名派遣する。

2) 研修員の受入れ：

研修員については、年間2～3名の受入が適当である。研修の分野については、プロジェクト開始以降の状況にもよるが、下記の分野での受入れが効果的と思われる。

- ・育種素材の冷凍保存
- ・胚珠培養（育種、増殖）
- ・栽培育種 など

3) 機材供与：

INTA 側の既存の機材及びCETEFFHO で使用している機材を最大限有効活用するため、両機関が所持している機材との兼ね合いを考慮しつつ、機材申請を行う必要がある。

INTA が所持している資機材は、花卉の研究部門がなかったことから、専用に使用できる機材は少ない。また、CETEFFHO の花卉研究に係る機材に関しては、プロジェクトを想定しての資機材供与を図ってきた訳ではなく、育種部門よりもむしろ、栽培に係る研究用機材を多分に整備してきた経緯がある。

よって、技術移転の円滑な実施を図るために、プロジェクトの前半に集中的に機材を供与し、器具、資機材の整備を行う必要がある。

また、供与機材の一部は CETEFFHO に設置されることになるが、アルゼンティン側に供与したことが明確に分かるよう配慮する必要がある。

供与機材リスト（暫定）を付属資料 6 に示す。

(3) アルゼンティン側が取るべき措置

1) 人材の配置：

現在、CETEFFHO において研修中の INTA 職員 1 名のほか、公募による研究者 4 名をプロジェクトの専属人材として配置する。書類選考・面接を経て INTA の正職員として採用する予定であるとのことであり、早急にリストを提出するよう申し入れを行った。

上記 5 名のほか、人材補助として、専属ではないが INTA の奨学金制度を利用した準職員 1～2 名の配置も予定している。将来的に正式な人材になる可能性もある。

これらの人材は、花卉園芸に係る研究組織 (Research Unit) の土台となるものである。

2) 建物・付帯施設の提供について：

①施設設備

協力活動は主に INTA 生物資源研究所において行われることになり、現状を確認したところ、日本側専門家用の事務机、実験室の空調設備などについて整備する必要があるものの、電話線は確保済みで、CETEFFHO の施設を一部利用することを考慮すれば特段問題はないと思われる。

②簡易温室の提供

品種の導入・栽培、育種に使用するための全体で 500 平方メートル、4 棟程度の温室が必要と思われる点で意見の一致をみた。この結果、アルゼンティン側が INTA の既存温室 2 棟（1 棟は冷房機器付で一部スペースを提供、もう 1 棟は冷房機器付ではないが、半分のスペースを提供）併せて 200 平方メートル相当分をプロジェクトのために提供することに合意した。

3) コスト負担：

①必要予算の拠出

アルゼンティン側は M/D の付表 III-5 のとおり、当該計画期間中継続的に予算を投入することを明言した。

また、プロジェクトの実施、特にカンパニーの旅費日当と管理作業員の勤務時間外手当のための十分な予算を確保するための措置が必要であり、アルゼンティン側はこれを了承した。

②プロジェクト外運営費

アルゼンティン側は、付属資料7に示したアルゼンティン側投入コスト一覧表をプロジェクト外に対して提出することを了承した。

③圃場管理職員の配置

アルゼンティン側が週末及び祝日の植物体の管理職員を配置する旨言明した。

5-2 暫定実施計画案

本プロジェクトの暫定実施計画については、大課題（TSI）に対してそれぞれの中課題、小課題を示した活動計画案、更に年次別計画案（事前調査団報告書の付属資料3参照）に沿って実施していく予定である。

また、プロジェクト・デザイン・マトリックス（PDM）についてアルゼンティン側と協議のうえ策定し、ミットに記載した。

6. 関係機関との協議概要

(1) 農牧水産食糧庁

農牧水産食糧庁長官と意見交換を行った。

調査団は、JICA が過去に行った農業案件及び現在継続中のプロジェクトに対する感謝の意を表明するとともに、今次の園芸開発計画の概要を説明し、理解を求めた。

これに対し、花卉園芸に携わる若い研究者を育成することがアルゼンチンの花卉産業発展には不可欠な要素であり、非常に期待している旨発言があり、共同プロジェクトとしてお互い協力しながら成功裡に進めたいとの見解が示された。

また、次期国家開発計画の重要支援項目に「花卉」の文言を明文化するよう申し入れを行った。農牧水産食糧庁長官より、国家開発計画レベルでの花卉産業支援は必要であり、INTAをはじめ諸機関とも協議しながら前向きに検討したい旨発言があった。

(2) 国立農牧技術院 (INTA)

INTA 副総裁、国際事業部長、INTA カステル天然資源研究センター (CIRN) 所長、同生物資源研究所 (IRB/CIRN) 所長ほか主要な幹部と十分な意見交換を行った。

1997年9月に実施された基礎調査及び1998年8月に実施された事前調査において、本プロジェクトの基本計画、活動内容などは双方十分把握していたため、協議は終始友好的に進められた。本プロジェクトは花卉育種分野の人材育成を第一義に据えている旨再確認を行うとともに、花卉産業発展の土台となるアルゼンチン人による研究組織 (Research Unit) の設立について意向を聞いた。

これに対して INTA 副総裁より、IRB/CIRN 内での研究組織の設立及び人材の育成が重要項目であり、プロジェクトのカウンターパートが研究組織の土台を築いてくれるだろうとの発言があった。また、同様に INTA 副総裁より下記のコメントがあった。

花卉産業の開発は生物資源を保存するというテーマも含んでいる。アルゼンチンでは、これまで膨大な量の植物標本を収集し、種子の研究やゲノムに関係する研究を行ってきた。大事なことは、アルゼンチンに自生する豊富な植物遺伝資源を活用することである。本プロジェクトを大いに活用し、将来的には牧草や薬草についても同様の研究ができるようになりたい。また、プロジェクト外の成果を通して花卉の輸出進行につなげていきたい旨発言があった。

(3) 花卉・観賞植物分科委員会

農牧水産食糧庁内大統領顧問、INTA 総裁を歴任し、1991年以降、大統領地域生産物検

討担当顧問、非伝統的作物輸出振興計画（PROMEX）最高責任者を務め、現在、ブエノスアイレス中央市場公社総裁である FERRE 氏が座長を務める標記委員会は、国立種子研究所（INASE）や国立食品品質衛生検査所（SENASA）ほかブエノスアイレス大学などの公的組織及び花卉組合等生産者団体などの民間組織からなる機関であり、アルゼンチンの花卉園芸発展に資するために、輸入税率の決定や品質規格のスタンダード化など、政策面について協議し、政府へ提言する委員会である。設立したのは農牧庁であるが、参加者は様々な機関の代表者から成り立っている。運営そのものは民間だが、政府への影響力は非常に強い。

冒頭、団長より本プロジェクトの概要説明を行い、国家開発計画に「花卉」の文言が明文化されるよう協力を求めた。

これに対し、座長より以下のコメントがあった。

国策として花卉産業が重要視されなければならないと認識している。本プロジェクトの成果として、花卉育種分野の研究者が育成されることに大きな期待を抱いており、成功を祈っている。JICA が CETEFFHO を設立してから、アルゼンチンの花卉研究も国際的なものに近づいてきているが、本プロジェクトについても、共同プロジェクトとして INTA、CETEFFHO のみならず、農牧庁や花卉組合代表者とも連携を取りながら進めていきたい。

アルゼンチンでは従来国策として、主に牧畜業を重点的に支援してきた経緯があるが、非伝統的作物である花卉産業振興の必要性を十分痛感し、1989年農牧水産食糧庁次官イベルの顧問を退官後にこの委員会を設立した。1999年3月に全体会議開催を予定しているが、その席上国家開発計画の重要支援項目として「花卉」が含まれるよう議題を提出するつもりである。皆の賛同を得られることは間違いなく、討議結果を農牧庁に提出し、推進を図る。

その他主要なアルゼンチン側からのコメントは下記のとおりである。

- 1) アルゼンチンは、UPOV（植物の新品種の保護に関する国際条約）は早くから加盟した国の一つであり、当国では、国立種子研究所（INASE）が主体となって新品種の権利を保証している。新品種が創出された場合、直ちに国内外に登録できる体制が整っている。INTA からは、小麦、トウモロコシなどの品種が登録されている。
- 2) 花卉・観賞植物分科委員会のほかには、果樹、野菜、香料植物の計4つの分科委員会が存在し、各々の活動を行っている。
- 3) 今後は、花卉生産者に対しても国レベルでの花卉産業支援の必要性を認識してもらい、官民一体となって自由な発想で意見交換を行い、本委員会を推進していきたい。

(4) アルゼンチン花卉組合役員

全国の花卉流通量の約6割を取り扱っているアルゼンチン花卉市場内に事務所を構える標記組合役員との意見交換内容は下記のとおりである。

- 1) 今までは、収穫したから販売するというスタイルで、生産者も市場もなれ合いの状況が続いてきたが、今後国際競争の時代に入り組合としても輸出振興などに対応していきたい。そのためには、国が基幹産業として花卉を認識することが肝要である。
- 2) 最近、庭先販売や直接墓場などに持って行って青空販売を行うケースが目立つが、本来、収穫された花卉は全て市場を通して流通されなければならない。
- 3) 生産者の中には、花卉栽培の「技術者」と呼ばれる人達に高額のコンサル料を支払って指導を受けている場合があるが「技術者」は、温室や設備に莫大な投資をするよう勧めるのみでヒントがはずれている。実際の栽培技術の向上に役立つような指導者が是非必要である。
- 4) アルゼンティンでは交通（鉄道）の便が悪く、地方においては首都から運んだ花卉よりも輸入花の方が安価に購入できる。地方都市での販売が今後の課題である。

(5) ゲーウイン研究所

科学技術省審議会（CONICET）に属する公的機関である。南米各地の様々な種類の植物に関する文献が保管されている。

また、植物標本の分類・研究も進められており、本プロジェクトの活動の一つであるアルゼンティンの自生花卉の探索収集において、自生品種・分布地の調査などについて文献及び標本類を活用してほしい旨頼んだところ、快く協力するとの回答を得た。

(6) 日系花卉園芸農家視察

1) Naturalis 共同出荷場

4戸の花生産農家（主に観葉植物栽培）が共同出資した設立した Naturalis S. H（Sociedad de Hecho）は、面積約1ヘクタールのハウスの中で自前の鉢物の観葉植物を販売しているが、品質の良い品物ならほかの農家の鉢も入荷させている。

購買客層としては小売業者が多く、一般消費者も購買可能である。都心から地方へ続く高速道路脇に位置し、小売業者から見れば都心の花卉市場へ行かなくとも仕入れができる点で便利である。

上記4農家は以前は個人で庭先販売を行っていたが、1年程前に同出荷場を建設してからは交代で販売業務にあたっている。

2) エスコバル地域

①久木園：バラ切り花・ミニバラ（鉢物）栽培

面積約8ヘクタール、施設300平方メートル×28棟及び240平方メートル×30棟

計9名を雇用し、バラ（切り花）4万3600本、ミニバラ（鉢物）8万鉢を栽培している。

切り花では黄色、白色が人気が高い。25本束で赤色のバラが約10鉢で取り引きされるのに対し、黄色、白色は18鉢で取り引きされる。一方、鉢物は1鉢当たり平均1.30鉢で取り引きされるとのことであった。

今後は観葉植物の栽培をふやしていきたい意向である。

3) ロマ・ベルデ移住地

①玉置園：観葉植物栽培

面積約1.60ヘクタール、施設計7,200平方メートル、雇用者6名

鉢物のみで、約25万鉢栽培している。主な栽培品種はディエンバネリ、シクラム、ニューキニアイパチェンスなど。

また、8名の共同出資で上記 Naturalis のような共同出荷場を運営している。

②細川園：ラン培養・栽培

面積約5ヘクタール、施設計3,600平方メートル

ランの温室2,400平方メートル、シビシウム温室1,200平方メートルを有する。

そのほかにランの組織培養室がある。以前は停電が多発し室内の温度が定まらず苦勞したとのことだが、最近では停電も滅多に起こらず、順調に培養試験が行えるとのことであった。

付 属 資 料

1. 討議議事録 (R/D) 英文
2. 討議議事録覚書 (M/D) 英文
3. 討議議事録 (R/D) 西文
4. 討議議事録覚書 (M/D) 西文
5. 実施機関組織図
6. 供与機材リスト (暫定)
7. アルゼンティン側投入コスト一覧表

RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN JAPANESE IMPLEMENTATION SURVEY TEAM
AND
AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE ARGENTINE REPUBLIC
ON
THE JAPANESE TECHNICAL COOPERATION
FOR THE HORTICULTURE DEVELOPMENT PROJECT

The Japanese Implementation Survey Team organized by Japan International Cooperation Agency and headed by Dr. KONISHI Kuniyoshi, Professor Emeritus, National University of OKAYAMA (hereinafter referred to as "the Team"), visited the Argentine Republic from November 30th, 1998 to December 8th, 1998 for the purpose of working out the details of the technical cooperation program concerning the Horticulture Development Project in the Argentine Republic.

During its stay, the Team exchanged views and had a series of discussions with the Argentine authorities concerned on desirable measures to be taken by both Governments for successful implementation of the above-mentioned Project.

As a result of the discussions, and in accordance with the provisions of the Agreement on Technical Cooperation between the Government of Japan and the Government of the Argentine Republic, signed in Tokyo on October 11th, 1979 (hereinafter referred to as "the Agreement"), the Team and the Argentine authorities concerned agreed to recommend to their respective Governments the matters referred to in the document attached hereto.

Done in both English and Spanish, each text being equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Buenos Aires, December 7th, 1998

小西 国義

Dr. KONISHI Kuniyoshi
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation Agency,
Japan

Luis María Firpo Brenta

Ing. Agr. Luis María FIRPO BRENTA
Vice-President,
National Institute for Agricultural Technology,
The Argentine Republic

ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

1. The Government of the Argentine Republic will implement the Horticulture Development Project (hereinafter referred to as "the Project") in cooperation with the Government of Japan.
2. The Project will be implemented in accordance with the Master Plan which is given in ANNEX I.

II. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF JAPAN

In accordance with the laws and regulations in force in Japan and the provisions of Article III of the Agreement, the Government of Japan will take, at its own expense, the following measures through Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") according to the normal procedures of its technical cooperation scheme.

1. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

The Government of Japan will provide services of the Japanese experts as listed in ANNEX II. The provision of Article IX of the Agreement will be applied to the above-mentioned experts.

2. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

The Government of Japan will provide such machinery, equipment and other materials necessary for the implementation of the Project as listed in ANNEX III (hereinafter referred to as "the Equipment"). The provision of Article VII-1 of the Agreement will be applied to the Equipment.

3. TRAINING OF ARGENTINE PERSONNEL IN JAPAN

The Government of Japan will receive Argentine personnel connected with the Project for technical training in Japan.

III. MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE ARGENTINE REPUBLIC

1. The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to ensure self-reliant operation of the Project during and after the period of Japanese technical

③ JICA

cooperation, through the full and active involvement by all related authorities, beneficiary groups and institutions in the Project .

2. In accordance with the provision of Article IV of the Agreement, the Government of the Argentine Republic will ensure that the technologies and knowledge acquired by the Argentine nationals as a result of the Japanese technical cooperation will contribute to the economic and social development of the Argentine Republic.
3. In accordance with the provisions of Article V and VI of the Agreement, the Government of the Argentine Republic will grant in the Argentine Republic privileges, exemptions and benefits to the Japanese experts referred to in II-1 above and their families.
4. In accordance with the provisions of Article VII of the Agreement, the Government of the Argentine Republic will take the measures necessary to receive and use the Equipment provided through JICA under II-2 above and equipment, machinery and materials carried in by the Japanese experts referred to in II-1 above.
5. The Government of the Argentine Republic will take necessary measures to ensure that the knowledge and experience acquired by the Argentine personnel from technical training in Japan will be utilized effectively in the implementation of the Project.
6. In accordance with the provision of Article V-(e) and (f) of the Agreement, the Government of the Argentine Republic will provide the services of the Argentine counterpart personnel and administrative personnel as listed in Annex IV.
7. In accordance with the provision of Article V-(a) and (b) of the Agreement, the Government of the Argentine Republic will provide the land, buildings and facilities as listed in Annex V.
8. In accordance with the laws and regulations in force in the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic will take necessary measures to supply or replace at its own expense machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for the implementation of the Project other than the Equipment provided through JICA under II-2 above.
9. In accordance with the laws and regulations in force in the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic will take necessary measures to meet the running expenses necessary for the implementation of the Project.

A handwritten signature and initials in black ink, located at the bottom left of the page. The signature appears to be 'S. J.' with a stylized flourish.

IV. ADMINISTRATION OF THE PROJECT

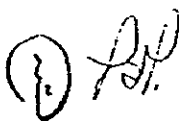
1. The National Director, National Institute for Agricultural Technology (hereinafter referred to as "INTA"), as the Project Director, will bear overall responsibility for the administration and implementation of the Project.
2. The Director, Biological Resource Institute, Research Center for Natural Resources, (hereinafter referred to as "IRB/CIRN"), INTA, as the Project Manager, will be responsible for the managerial and technical matters of the Project.
3. The Japanese Chief Advisor will provide necessary recommendations and advice to the Project Director and the Project Manager on any matters pertaining to the implementation of the Project.
4. The Japanese experts will give necessary technical guidance and advice to the Argentine counterpart personnel on technical matters pertaining to the implementation of the Project.
5. For the effective and successful implementation of the technical cooperation for the Project, a Joint Coordinating Committee will be established whose functions and composition are described in ANNEX VI.
6. The organization chart of the Project is shown in ANNEX VII.

V. JOINT EVALUATION

Evaluation of the Project will be conducted jointly by the two Governments through JICA and the Argentine authorities concerned, at the middle and during the last six months of the cooperation term in order to examine the level of achievement.

VI. CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

In accordance with the provision of Article VIII of the Agreement, the Government of the Argentine Republic shall bear claims, if any arise, against the Japanese experts engaged in technical cooperation for the Project resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in the Argentine Republic except for those arising from the willful misconduct or gross negligence of the Japanese experts.



VII. MUTUAL CONSULTATION

There will be mutual consultation between the two Governments on any major issues arising from, or in connection with this Attached Document.

VIII. MEASURES TO PROMOTE UNDERSTANDING AND SUPPORT TO THE PROJECT

For the purpose of promoting the support for the Project among the people of the Argentine Republic, the Government of the Argentine Republic will take appropriate measures to make the Project widely known to the people of the Argentine Republic.

IX. TERM OF COOPERATION

The duration of technical cooperation for the Project under this Attached Document will be five (5) years from May 1st, 1999.

(2) AD
7/01

ANNEX I. MASTER PLAN

1. Overall Goal

The Project is to be set with the overall goal to augment incomes of floricultural farmers through improvement of floricultural products quality in the Argentine Republic.

2. Project Purpose

The purpose of the project is to enhance the research activities on floriculture and flower breeding technology through growing useful cultivars of Argentine origin.

3. Outputs of the Project

(1) Argentine Researchers trained in the fields of new breeding systems and preservation methods, using native potential ornamental plants of Argentine and commercial varieties, taking advantage of the wealth of plant genetic resources.

(2) The appropriate flower breeding technology fixed on the basis of plant breeding theory and floriculture under Argentine climates.

(3) Establishment of useful and practical technology for flower breeding.

4. Activities of the Project

(1) Research on exploration, collection, evaluation and preservation for breeding materials of ornamental plants of Argentine origin.

⇒Transferring to Argentine researchers the technology for introduction of new genetic traits, evaluation of involved traits, preservation methods, and so on, being objects of principal ornamental plants of Argentine origin.

(2) Research on the applied breeding technology for ornamental plants in the Argentine Republic.

⇒Researching the appropriate breeding technology and theory including crossing method, seed production system, seed germination physiology, analysis of growth and flowering habit, and introduction methods for special traits.

(3) Practical Research on the cultivars breeding in ornamental plants.

⇒Investigation of practical breeding technics of new cultivars and their propagation methods suitable to Argentine climates.

5. Partner Organization of the Project

Technological Center on Floriculture, Fruits Culture and Horticulture of JICA, (hereinafter referred to as "CETEFFHO") will act as the partner organization in order to implement the Project more effectively and efficiently, providing technology, knowledge and facilities related to the Project activities.

6. Project Site

IRB/CIRN of INTA located in Hurlingham, Department of Buenos Aires.

Handwritten signature and initials in black ink, consisting of a circled 'A' and some stylized letters.

ANNEX II.
LIST OF JAPANESE EXPERTS

1. Long-term Experts

- (1) Chief Advisor
- (2) Project Coordinator
- (3) Experts in the following fields;
 - a) Evaluation and improvement of potential ornamental species
 - b) Breeding of new cultivars

Note: The Chief Advisor may serve concurrently as an expert in one of the above-mentioned technical fields.

2. Short-term Expert(s)

Short-term Expert(s) may be dispatched when the need arises within the framework of the Project.

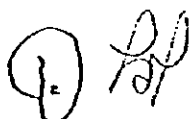
① J.P.

ANNEX III.

LIST OF MACHINERY AND EQUIPMENT

1. The Equipment necessary for
 - (1) Research on exploration, collection, evaluation and preservation of breeding materials of ornamental plants of Argentine origin.
 - (2) Research on the applied breeding technology for ornamental plants in the Argentine Republic.
 - (3) Practical Research on the cultivars breeding of ornamental plants.

2. Other machinery, equipment, reference books and documents, vehicles and materials mutually regarded by both the Japanese and Argentine sides as necessary for the effective and smooth implementation of the Project.



ANNEX IV.

LIST OF ARGENTINE COUNTERPART AND ADMINISTRATIVE PERSONNEL

1. Project Director
2. Project Manager
3. Full-Time Counterpart personnel in the fields of:
 - (1) Evaluation and improvement of potential ornamental species
 - (2) Breeding of new cultivars
4. Administrative Personnel
 - (1) Administrative staff
 - (2) Secretaries
 - (3) Drivers
5. Other necessary support staff



ANNEX V.

LIST OF LAND, BUILDINGS AND FACILITIES

1. Land, building, facilities needed for the implementation of the Project
2. Rooms and space necessary for installation and storage of the Equipment.
3. Office space and necessary facilities for the Japanese Chief Advisor, Project Coordinator and Experts
4. Other facilities mutually agreed upon, if necessary

Handwritten signature and initials in the bottom left corner.

ANNEX VI.

JOINT COORDINATING COMMITTEE

1. Functions of the Committee

The functions of the Committee are:

- (1) To formulate the Annual Work Plans of the Project in line with the Tentative Schedule of Implementation formulated under the framework of this Record of Discussions;
- (2) To review the overall progress of the Technical Cooperation Program as well as the achievements of the above-mentioned Annual Work Plans of the Project;
- (3) To review those measures taken by both the Japanese and the Argentine Republic sides;
- (4) To review and exchange views on major issues arising from or in connection with the Technical Cooperation Program; and
- (5) To recommend measures necessary to both Governments.

2. Composition of the Committee

(1) Chairperson:

President, INTA

(2) Vice-Chairperson:

National Director, INTA

(3) Members:

1) Argentine Side

- (i) Director, Research Center for Natural Resource, INTA
- (ii) Project Manager
- (iii) Representative(s) from International Relation Division, INTA
- (iv) Representative(s) from respective research activities of the Project

2) Japanese Side

- (i) Chief Advisor
- (ii) Project Coordinator
- (iii) Experts assigned to the Project
- (iv) Other experts and personnel to be dispatched by JICA, if necessary
- (v) Director, CETEFFHO
- (vi) Members of the Mission dispatched by JICA to join the Committee
- (vii) Resident Representative, JICA Argentina Office

3) Observers:

Representative(s) of the Embassy of Japan in the Argentine Republic may attend the meeting as observer(s).

Note: Any other concerned personnel may attend the meeting with the permission of the Chairperson.

4) Frequency of Meetings:

Meetings will be held at least once a year and whenever necessary.

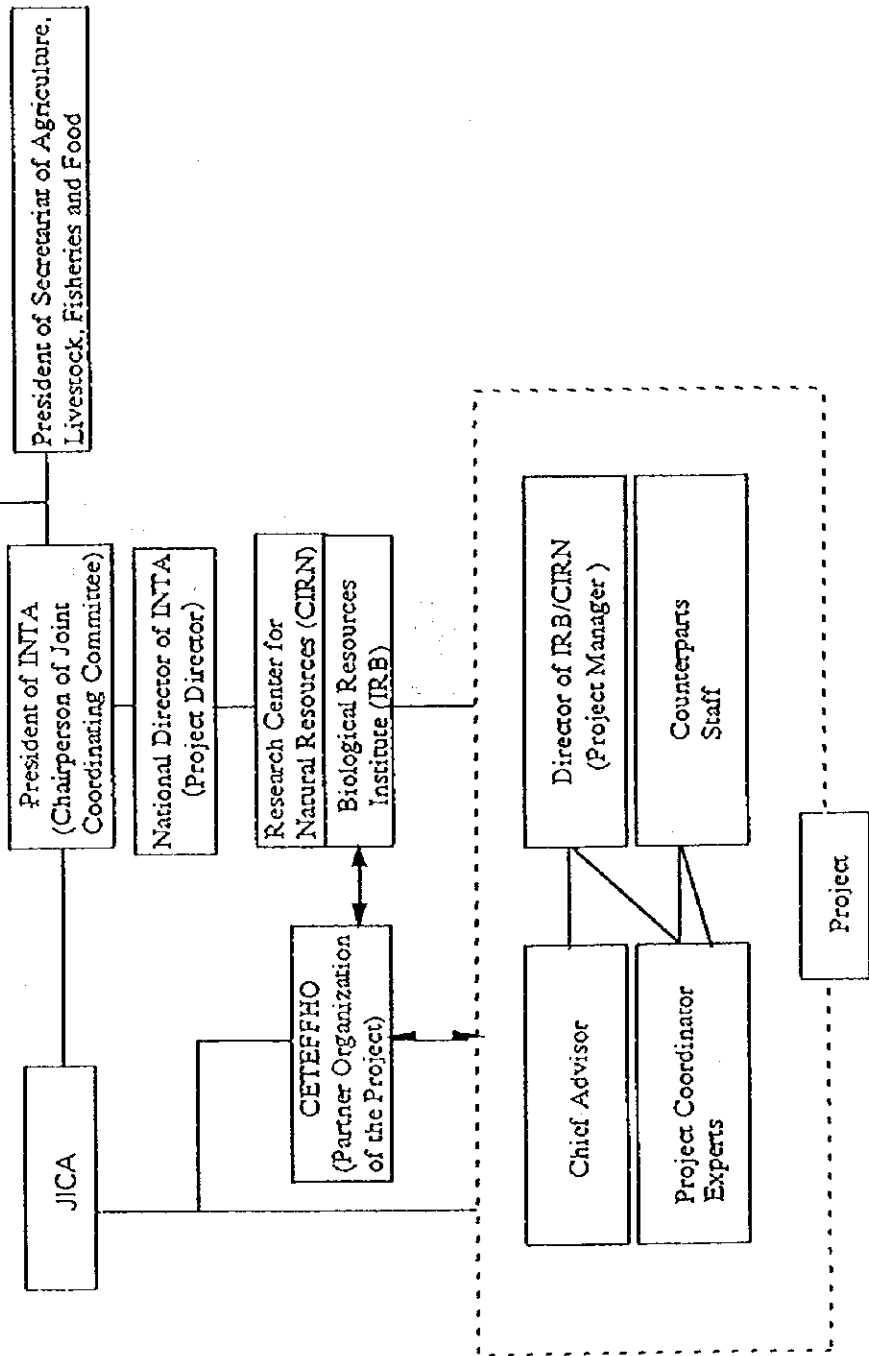


①
S

ANNEX VII

Organization Chart of the Project

INTA : National Institute for Agricultural Technology
 CETEFFHO: Technological Center on Floriculture, Fruits
 Culture and Horticulture



MINUTES OF DISCUSSIONS
ON
THE HORTICULTURE DEVELOPMENT PROJECT
IN
THE ARGENTINE REPUBLIC

The Japanese Implementation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") and the Argentine Republic authorities concerned with the Horticulture Development Project in the Argentina Republic (hereinafter referred to as "the Project"), had a series of discussions for the implementation of the Project in connection with the Record of Discussions of the Project.

As a result of the discussions, both parties confirmed the items described on the attached sheets, and these confirmed items will be recommended to their respective Governments by each party.

The items in the attached sheets are discussed on condition that the necessary budget will be allocated for the Project implementation and are subject to change within the framework of the Record of Discussions when necessity arises in the course of the Project implementation.

Done in both English and Spanish, each text being equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

Buenos Aires, December 7th, 1998

小西 国義

Dr. KONISHI Kuniyoshi
Leader,
Implementation Survey Team,
Japan International Cooperation Agency,
Japan

Luis María Firpo Brenta

Ing. Agr. Luis María FIRPO BRENTA
Vice-President,
National Institute for Agricultural Technology,
The Argentine Republic

ATTACHMENT

1. TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION (TSI)

Both parties have jointly formulated the Tentative Schedule of Implementation of the Project as shown in ANNEX I.

2. PROJECT DESIGN MATRIX (PDM)

Both parties have jointly formulated the Project Design Matrix of the Project as shown in ANNEX II.

The PDM specifies the objective, output and activities of the Project, and clarifies what it is that the Project should achieve and to what extent the Project facilitates the effective administration of these achievements. The PDM is used for monitoring the Project activities and achievements, and it should be flexibly revised in response to changes in external conditions through the approval of the Joint Coordinating Committee.

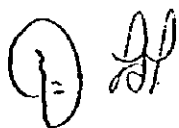
3. MEASURES TO BE TAKEN FOR PROJECT IMPLEMENTATION

For the smooth and effective implementation of the Project, both parties have agreed to take the necessary measures described in ANNEX III.

(3) / 10/11

LIST OF THE ANNEXES

- ANNEX I TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION (TSI)
- ANNEX II PROJECT DESIGN MATRIX (PDM)
- ANNEX III RECOMMENDATIONS FOR THE PROJECT IMPLEMENTATION MADE
BY EACH PARTY



ANNEX I

TENTATIVE SCHEDULE OF IMPLEMENTATION (TSI)

I. ANNUAL PROGRAM

Project Activities	PROJECT YEAR				
	1st	2nd	3rd	4th	5th
I. Research on exploration, collection, evaluation and preservation for breeding materials of ornamental plants from Argentine origin.					
II. Research on the applied breeding technology for ornamental plants in the Argentine Republic. <ul style="list-style-type: none"> · Improvement of flowering habits in ornamental plants. · Selection to shorten the juvenile stage in ornamental flowering trees. · Breeding for salt tolerance, especially high sodium concentration. · Breeding by means of poliploid production. 					
III. Practical research on the cultivars breeding in ornamental plants. <ul style="list-style-type: none"> · Comparison between introduced foreign commercial and domestic cultivars. · Introducing new genetic traits of native Argentine plants showing potential ornamental value into commercial cultivars. · Propagation by means of tissue culture. 					

2. TECHNICAL COOPERATION PROGRAM

ITEM	PROJECT YEAR				
	1st	2nd	3rd	4th	5th
1. Japanese side					
(1) Long-Term Experts					
1) Chief Adviser					
2) Project Coordinator					
3) Experts in the fields of:					
a) Evaluation and improvement of potential ornamental species					
b) Breeding for new cultivars					
(2) Short-Term Experts					
(3) Counterpart Training in Japan					
(4) Provision of Machinery and Equipment					
(5) Dispatch of Survey Missions					
	(when necessity arises)				
2. Argentine Side					
(1) Counterparts and administrative personnel					
1) Project Director					
2) Project Manager					
3) Counterpart personnel to the Japanese Experts					
4) Administrative Staff					
5) Other necessary support personnel					
(2) Land, Buildings, Facilities and Equipment					
1) Offices and facilities necessary for the Japanese Chief Advisor and other Experts					
2) Laboratories and attached facilities					
3) Other facilities mutually agreed upon as required					
(3) Provision of running expenses of the Project					

①
D.J.



ANNEX II Project Design Matrix (PDM)

Narrative Summary	Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumptions				
<p>I. Overall Goal The Project is to be set with the overall goal to augment incomes of floricultural farmers through improvement of floricultural products quality in the Argentine Republic.</p>	<p>1. Incomes of floricultural farmers will augment more than the average incomes of 1999. 2. The amount of flower production will increase more than that of 1999 in the Argentine Republic.</p>	<p>1. Statistical data of the Argentine Republic. Horticultural annual bulletin. 2. Statistical data of the Argentine Republic. Horticultural annual bulletin.</p>	<p>A. The Argentine supporting policy to floriculture will be maintained. B. INTA will promote the extension of results of the Project to floricultural farmers. C. The distribution system on floricultural products will be arranged.</p>				
<p>II. Project Purpose The purpose of the Project is to enhance the research activities on floriculture and flower breeding technology through growing useful cultivars of Argentine origin.</p>	<p>1. The thesis on flower breeding will be presented by the counterparts in the congress of horticultural society of Argentine Republic. 2. Counterparts will be able to create new practical cultivars by themselves.</p>	<p>1. Reports in annual congress of horticultural society. 2. Reports in annual congress of horticultural society. Annual bulletin of INASE.</p>	<p>D. The composed Argentine Research Unit will continue the activities.</p>				
<p>III. Outputs of the Project (1) Argentine Researchers trained in the fields of new breeding systems and preservation methods, using native potential ornamental plants of Argentine and commercial varieties, taking advantage of the wealth of plant genetic resources. (2) The appropriate flower breeding technology fixed on the basis of plant breeding theory and floriculture under Argentine climates. (3) Establishment of useful and practical technology for flower breeding.</p>	<p>1-1~3. Information on the genetic resources concerning the native ornamental plants will be accumulated. 1-4. The preservation methods of breeding materials will be established. 2-1~4. Together with the genealogy of cultivars, the table of various traits of these cultivars will be completed. 2-1~4. The standard of breeding test will be completed. 3-1. The standard for the test of adaptability to Argentine climates and the test of various characteristics will be established. 3-2~3. According to the degree of advance of the Project, the new cultivars will be created and the seeds and saplings of the new cultivars will be produced.</p>	<p>1-1~3. Accumulated information. Research reports. 1-4~3-3. The reports of the Project. Research reports. Publications.</p>	<p>E. The Research Unit concerning floriculture will be composed by the Argentine Republic. F. The facilities environment for the research activities concerned the flower breeding will be arranged.</p>				
<p>IV. Activities 1-1. Exploration and collection. 1-2. Clarify the specific traits. 1-3. Evaluation of involved traits. 1-4. Preservation methods. 2-1. Improvement of flowering habits in ornamental plants. 2-2. Selection to shorten the juvenile stage in ornamental flowering trees. 2-3. Breeding for salt tolerance, especially high sodium concentration. 2-4. Breeding by means of polyploid production. 3-1. Comparison between introduced foreign commercial and domestic cultivars. 3-2. Introducing new genetic traits of native Argentine plants showing potential ornamental value into commercial cultivars. 3-3. Propagation by means of tissue culture.</p>	<p>V. Input of the Project</p> <table border="1" data-bbox="949 1032 1236 1525"> <thead> <tr> <th data-bbox="949 1122 981 1525">Japanese Side</th> <th data-bbox="949 763 981 1122">Argentine Side</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="986 1122 1236 1525"> <p>1. Dispatch of Japanese experts. 2. Training of the Argentine personnel in Japan. 3. Provision of machinery and equipment.</p> </td> <td data-bbox="986 763 1236 1122"> <p>1. Services of the Argentine counterparts personnel and administrative personnel. 2. Provision of land, buildings and facilities. 3. Running expenses.</p> </td> </tr> </tbody> </table> <p>Note: See the details of the Master Plan of R/D</p>	Japanese Side	Argentine Side	<p>1. Dispatch of Japanese experts. 2. Training of the Argentine personnel in Japan. 3. Provision of machinery and equipment.</p>	<p>1. Services of the Argentine counterparts personnel and administrative personnel. 2. Provision of land, buildings and facilities. 3. Running expenses.</p>	<p>G. The climates in the Argentine Republic will not change considerably. H. The procedure regarding the customs clearance and the transportation of the equipment within the Argentine Republic will not delay.</p>	<p>G. The climates in the Argentine Republic will not change considerably. H. The procedure regarding the customs clearance and the transportation of the equipment within the Argentine Republic will not delay.</p>
Japanese Side	Argentine Side						
<p>1. Dispatch of Japanese experts. 2. Training of the Argentine personnel in Japan. 3. Provision of machinery and equipment.</p>	<p>1. Services of the Argentine counterparts personnel and administrative personnel. 2. Provision of land, buildings and facilities. 3. Running expenses.</p>						
	<p><Prerequisite></p>		<p>I. The activities of Technological Center on Floriculture, Fruits Culture and Horticulture (CETEFHO) will continue.</p>				

ANNEX III

Recommendation for the Project Implementation made by Each Party

1. National Support to the Floricultural Industry in the Argentine Republic

The Argentine authorities concerned stated clearly that the floricultural industry in the Argentine Republic would be backed up firmly on the national politic level, taking account of the expected fruitful result of the Project conducted on its own initiative by the Argentine side in collaboration with the Japanese side.

National support of the Argentine Government in the above-mentioned field should be reflected in the next National Development Plan (2000~2004)

2. The Role of CETEFFHO as a Partner Organization of the Project

Both the Japanese and Argentine sides are aware of the indispensable role of CETEFFHO for the effective and efficient Project implementation.

To this effect, CETEFFHO will provide the Project in maximum with its expertise and technology in the related field. And a part of the Equipment will be set and utilized for the Project at CETEFFHO.

3. Intellectual Property Right on New Cultivars

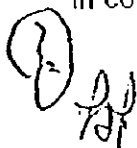
It is clearly stated by INTA that in case of obtaining new cultivars in course of the Project, INTA would register officially them at the National Institute of Seeds (INASE) or another registration offices abroad in the name of INTA/JICA, and the royalties and other incomes related to the new cultivars would be destined to the development of the floricultural area of INTA.

4. Creation of the Research Unit of the Floricultural Area in INTA

According to the Minutes of Discussions between the Argentine authorities concerned and the preliminary study team dispatched by JICA, signed in Buenos Aires on August 20th, 1998, both the Japanese and Argentine sides have reconfirmed INTA's plan to create the Research Unit and a specialized local team of the Floricultural Area in INTA during the Project term.

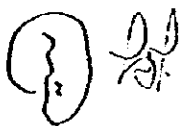
5. Promotion of the Project Activities

In consideration with the smooth commencement and the activation of the Project, INTA



will secure continuous budgetary input for the Project in course of the Project as the organization of the Project implementation, especially INTA should provide two simple greenhouses within the first two years of the Project term.

Also INTA will prepare full-time counterpart personnel list besides sending in official applications forms related to the dispatch of Japanese experts ,the provision of machinery and equipment and so forth to the Government of Japan without delay.

Handwritten signature and initials in the bottom left corner.

**RESUMEN DE LAS DISCUSIONES
ENTRE LA MISION JAPONESA DE ESTUDIO DE IMPLEMENTACION
Y
LAS AUTORIDADES COMPETENTES DEL
GOBIERNO DE LA REPUBLICA ARGENTINA
SOBRE
LA COOPERACION TECNICA DEL JAPON
PARA EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LA FLORICULTURA**

La Misión Japonesa de Estudio de Implementación (en adelante denominada "La Misión"), organizado por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón y encabezado por el Dr. Kuniyoshi KONISHI, Profesor Emérito de la Universidad Nacional de Okayama, visitó la República Argentina desde el día 30 de Noviembre hasta el día 8 de Diciembre de 1998, a los efectos de determinar los detalles del programa de cooperación técnica concerniente al Proyecto de Desarrollo de la Floricultura en la República Argentina.

Durante su estadía en la República Argentina, la Misión intercambió opiniones y llevó a cabo una serie de conversaciones con las autoridades competentes de la República Argentina con respecto a las medidas convenientes a ser tomadas por ambos Gobiernos para la satisfactoria ejecución del Proyecto anteriormente mencionado.

Como consecuencia de las conversaciones, y teniendo en cuenta las disposiciones del Convenio de Cooperación Técnica entre el Gobierno del Japón y el Gobierno de la República Argentina, firmado en Tokio el día 11 de Octubre de 1979 (en adelante denominada "El Convenio"), la Misión y las autoridades competentes de la República Argentina convinieron en recomendar a sus respectivos Gobiernos los puntos referidos en el documento adjunto.

Confeccionado en idioma español e inglés, siendo cada uno de ellos igualmente auténtico. En caso de surgir dudas en la interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

Buenos Aires, 7 de Diciembre de 1998.

小西 国義

.....
Dr. Kuniyoshi KONISHI
Jefe
Misión de Estudio de Implementación
Agencia de Cooperación
Internacional del Japón
Japón

Beeri

.....
Ing. Agr. Luis María FIRPO BRENTA
Vicepresidente
Instituto Nacional de Tecnología Agropecuaria
República Argentina

DOCUMENTO ADJUNTO

I. COOPERACION ENTRE AMBOS GOBIERNOS

1. El Gobierno de la República Argentina llevará a cabo el proyecto de Desarrollo de la Floricultura (en adelante denominado "El Proyecto") en colaboración con el Gobierno del Japón.
2. El Proyecto será llevado a cabo en conformidad con el Plan Maestro indicado en el Anexo I.

II. MEDIDAS QUE SERAN TOMADAS POR EL GOBIERNO DEL JAPON

De acuerdo con las leyes y reglamentos vigentes en el Japón y las disposiciones del Artículo III del Convenio, el Gobierno del Japón tomará a su propio costo, las siguientes medidas a través de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón (en adelante denominado "JICA") de acuerdo a los procedimientos usuales de su programa de cooperación técnica.

1. ENVIO DE EXPERTOS JAPONESES

El Gobierno del Japón proveerá los servicios de expertos japoneses como se enumeran de el Anexo II. La disposición del Artículo IX del Convenio será aplicado a los expertos arriba mencionado.

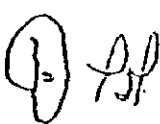
2. PROVISION DE MAQUINARIAS Y EQUIPOS

El Gobierno del Japón suministrará las maquinarias, equipos y otros materiales (en adelante denominado "El Equipo") que sean necesarios para la ejecución del Proyecto como se enumeran en el Anexo III. La disposición del Artículo VII-1 del Convenio será aplicado para los Equipos.

3. CAPACITACION DEL PERSONAL ARGENTINO EN EL JAPON

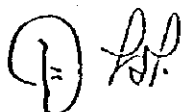
El Gobierno del Japón recibirá al personal relacionado con el Proyecto para la capacitación técnica en el Japón.

III. MEDIDAS QUE SERAN TOMADAS POR EL GOBIERNO DE LA REPUBLICA ARGENTINA

- 
1. El Gobierno de la República Argentina tomará las medidas necesarias para asegurar que la operación por sí misma del Proyecto será sostenido durante y después del período de cooperación técnica del Japón, a través de un

compromiso total y activo en el Proyecto por parte de todas las autoridades relacionadas, los grupos beneficiarios y los institutos.

2. En conformidad con la disposición del Artículo IV del Convenio, el Gobierno de la República Argentina asegurará que las tecnologías y los conocimientos adquiridos por nacionales argentinos como resultado de la cooperación técnica del Japón, contribuirán al desarrollo económico y social de la República Argentina.
3. En conformidad con la disposición del Artículo V y VI del Convenio, el Gobierno de la República Argentina concederá en la República Argentina, privilegios, exenciones y beneficios para los expertos japoneses y sus familias referidos en el punto II-1 antes mencionado.
4. En conformidad con la disposición del Artículo VII del Convenio, el Gobierno de la República Argentina, tomará las medidas necesarias para recibir y utilizar el Equipo suministrado por JICA bajo el punto II-2 antes mencionado y equipos, máquinas y materiales portados por los expertos japoneses referidos en el punto II-1 anteriormente indicado.
5. El Gobierno de la República Argentina, tomará las medidas necesarias para asegurar que el conocimiento y la experiencia adquiridos por el personal argentino capacitado técnicamente en el Japón, serán utilizados efectivamente en la ejecución del Proyecto.
6. En conformidad con la disposición del Artículo V-(e) y (f) del Convenio, el Gobierno de la República Argentina suministrará los servicios del personal de contraparte argentino y personal administrativo que se enumeran en el Anexo IV.
7. En conformidad con la disposición del Artículo V-(a) y (b) del Convenio, el Gobierno de la República Argentina suministrará el terreno, edificio y facilidades que se enumeran en el Anexo V.
8. En conformidad con las leyes y reglamentos vigentes en la República Argentina, el Gobierno de la República Argentina tomará las medidas necesarias para suministrar ó reemplazar bajo su costo las máquinas, equipos, instrumentos, vehículos, herramientas, piezas de repuestos y otros materiales necesarios para la ejecución del proyecto que no fuera el Equipo suministrado por JICA a través del punto II-2 anteriormente indicado.
9. En conformidad con las leyes y reglamentos vigentes en la República Argentina, el Gobierno de la República Argentina tomará las medidas

 A handwritten signature and initials, possibly 'A.P.', are written in the left margin next to the final list item.


necesarias para hacer frente a los gastos corrientes necesarios para la ejecución del Proyecto.

IV. ADMINISTRACION DEL PROYECTO

1. El Director Nacional del Instituto Nacional de Tecnología Agropecuaria (en adelante denominado "INTA"), como el Director del Proyecto, será el responsable máximo de la administración e implementación del Proyecto.
2. El Director del Instituto de Recursos Biológicos, Centro de Investigación de Recursos Naturales (en adelante denominado "IRB/CIRN"), como el Administrador del Proyecto, será el responsable de los asuntos administrativos y técnicos del Proyecto.
3. El Jefe de Asesores brindará al Director del Proyecto y al Administrador del Proyecto, las recomendaciones y asesoramientos necesarios sobre los asuntos técnicos y administrativos concernientes a la ejecución del proyecto.
4. Los expertos japoneses efectuarán las orientaciones y recomendaciones técnicas necesarias al personal argentino sobre los asuntos relacionados con la ejecución del proyecto.
5. Para la efectiva y exitosa ejecución de la cooperación técnica del Proyecto, será establecido un Comité Conjunto, cuyas funciones y composición se indican en el Anexo VI.

V. EVALUACIÓN CONJUNTA

La evaluación del Proyecto será realizado en forma conjunta por ambos Gobiernos a través de JICA y las autoridades competentes de la Argentina, a la mitad y durante los últimos seis meses de plazo de la cooperación con el objeto de examinar el grado de realización.

Handwritten signature and initials, possibly "A.P." or similar, in black ink.

VI. RECLAMOS CONTRA EXPERTOS JAPONESES

En conformidad con la disposición del Artículo VIII del Convenio, el Gobierno de la República Argentina se compromete a atender a los reclamos, si los hubiere, contra los expertos japoneses participantes en el Proyecto, provenientes de, originados en el curso de, ó relacionados de alguna otra forma con el desempeño de sus funciones de carácter oficial en la República Argentina, excepto aquellos casos que se ocasionaren por la mala conducta intencional ó negligencia total de los expertos japoneses.

VII. MUTUA CONSULTA

Habrá mutua consulta entre ambos Gobiernos sobre cualquier problema de mayor envergadura provenientes de, ó en conexión con el Documento Adjunto.

VIII. MEDIDAS PARA PROMOVER EL ENTENDIMIENTO Y EL APOYO HACIA EL PROYECTO

Con el objeto de promover el apoyo de los argentinos hacia el Proyecto, el Gobierno de la república Argentina tomará las medidas convenientes para anunciar ampliamente el Proyecto hacia sus connacionales.

IX. PERIODO DE COOPERACION

La duración de la cooperación técnica para el Proyecto, será según del Documento Adjunto de cinco (5) años a partir del 1º de Mayo de 1999.

(?) / 10/1

PLAN MAESTRO

1. Meta superior

El Proyecto se ha fijado como objetivo principal el aumento de los beneficios de los productores florícolas, a través del mejoramiento de la calidad de los productos florícolas en la República Argentina.

2. Propósito del Proyecto

El propósito del Proyecto es incrementar las actividades de investigación en el campo florícola y las tecnologías de mejoramiento en flores a través del uso de cultivares beneficiosos de origen argentino.

3. Resultados del Proyecto

- (1) Investigadores argentinos capacitados en el campo de nuevos sistemas de mejoramiento y métodos de preservación, usando potenciales plantas ornamentales nativas de la Argentina y variedades comerciales, tomando ventaja de las riquezas de los recursos genéticos.
- (2) Apropiada tecnología de mejoramiento floral establecida en base a las teorías de mejoramiento y floricultura bajo las condiciones climáticas argentinas.
- (3) Establecimiento de una tecnología apropiada y práctica sobre mejoramiento floral.

4. Actividades del Proyecto

- (1) Investigación sobre técnicas de exploración, colección, evaluación y preservación en materiales de plantas ornamentales de origen argentino.
 - Transferencia a investigadores argentinos de tecnología para la introducción de nuevas variantes genéticas, evaluación, métodos de preservación y otros, siendo objeto las principales plantas ornamentales de origen argentino.
- (2) Investigación sobre tecnologías aplicadas para plantas ornamentales florícolas de la Argentina.
 - Investigación de las tecnologías de mejoramiento apropiadas y su teoría, incluyendo métodos de cruzamiento, sistemas de producción de semillas, fisiología de germinación de semillas, análisis de cultivo y hábito de floración, e introducción de métodos para variantes especiales.



- (3) Investigación en el mejoramiento práctico de cultivares en especies ornamentales florales.
- Investigación sobre técnicas de mejoramiento práctico para la producción de nuevos cultivares y sus métodos de propagación apropiado al clima argentino.

5. Organismo participante del Proyecto

Centro Tecnológico de Flori-Fruti-Horticultura de JICA (en adelante denominado "CETEFFHO") actuará como organismo participante a fin de implementar el Proyecto más efectivamente y eficazmente, proveyendo la tecnología, los conocimientos y las instalaciones relacionadas a las actividades del Proyecto.

6. Ubicación del Proyecto

IRB/CIRN del INTA ubicado en Hurlingham, Provincia de Buenos Aires.

LISTA DE EXPERTOS JAPONÉSES

1. Expertos de largo Plazo

(1) Jefe de Asesores

(2) Coordinador

(3) Expertos en los siguientes campos:

a) Evaluación y mejoramiento de potenciales especies ornamentales

b) Mejoramiento de variedades cultivadas

Nota: El Jefe de Asesores podrá desempeñarse concurrentemente como experto en cualquiera de los mencionados campos.

2. Expertos de corto plazo

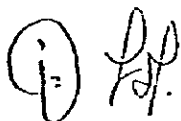
En caso de ser necesario, será(n) enviado(s) experto(s) de corto plazo, dentro del esquema del Proyecto.



LISTA DE MAQUINARIAS Y EQUIPOS

1. Los Equipamientos necesarios para
 - (1) Investigación sobre técnicas de exploración, colección, evaluación y preservación en materiales de plantas ornamentales de origen argentino
 - (2) Investigación sobre tecnologías aplicadas para plantas ornamentales florícolas de la República Argentina.
 - (3) Investigación en el mejoramiento práctico de cultivares en especies ornamentales florales.

2. Otras maquinarias, equipamientos, libros de referenica y documentos,vehículos y materiales mutuamente considerados por las partes Japonesas y Argentinas como necesarios para la efectiva y adecuada implementación del Proyecto




**LISTA DE CONTRAPARTE ARGENTINA
Y PERSONAL ADMINISTRATIVO**

1. Director del Proyecto.
2. Coordinador del Proyecto.
3. Personal contraparte de Tiempo Completo en las siguientes áreas:
 - (1) Evaluación y mejoramiento de potenciales especies ornamentales
 - (2) Mejoramiento de nuevos cultivares
4. Personal administrativo:
 - (1) Personal administrativo
 - (2) Secretarias
 - (3) Choferes
5. Otro personal de apoyo necesario.

① 10/1

LISTA DE TERRENO, EDIFICIOS Y FACILIDADES

- 1 Terreno, edificios y facilidades necesarias para la implementación del Proyecto.
- 2 Salas y espacios necesarios para la instalación y almacenaje de los Equipos.
- 3 Espacio para oficina y facilidades necesarias para el Jefe de Asesores, Coordinador y Expertos.
- 4 Otras facilidades que se acordarán mutuamente, si es necesario.



COMITE CONJUNTO DE COORDINACION

1. Funciones

Las funciones del Comité son:

- (1) Formular el Plan Anual de Trabajo del Proyecto de acuerdo al Programa Tentativo para la ejecución determinado bajo el esquema del Resumen de Discusiones.;
- (2) Revisar el avance global del programa de Cooperación Técnica, como así también la ejecución del Plan Anual de Trabajo del Proyecto arriba mencionado;
- (3) Revisar las medidas tomadas por la parte Japonesa y la parte de la República Argentina;
- (4) Revisar e intercambiar opiniones sobre cualquier problema de mayor envergadura proveniente de, ó en conexión con el Programa de Cooperación Técnica; y
- (5) Recomendar medidas necesarias a ambos Gobiernos.

2. Composición

(1) Presidente: Presidente del INTA

(2) Vicepresidente: Director Nacional del INTA

(3) Miembros:

1) Parte Argentina:

(i) Director del Centro de Investigaciones en Recursos Naturales del INTA

(ii) Coordinador del Proyecto

(iii) Representante(s) del Departamento de Relaciones Internacionales del INTA

(iv) Representante(s) de las respectivas actividades del Proyecto

2) Parte Japonesa:

(i) Jefe de Asesores

(ii) Coordinador

(iii) Expertos asignados al Proyecto

(iv) Otros expertos y personal enviados por JICA, si fuera necesario

(v) Director del CETEFFHO

(vi) Miembros de Misiones enviados por JICA para unificar el Comité

(vii) Representante Residente de JICA, Oficina en la Argentina

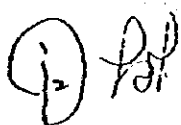
3) Observadores:

Representante(s) de la Embajada del Japón en la República Argentina podrá(n) asistir a las reuniones como observador(es)

Nota: Otro personal relacionado podrá asistir a la reuniones con la autorización del Presidente

4) Frecuencia:

La Reunión se celebrará al menos una vez por año y toda vez que sea necesario.

Handwritten signature or initials, possibly "J. P. P.", written in black ink.

MINUTA DE DISCUSIONES
SOBRE
EL PROYECTO DE DESARROLLO DE LA FLORICULTURA
EN LA
REPUBLICA ARGENTINA

La Misión Japonesa de Estudio de Implementación (en adelante denominada "La Misión") y las autoridades competentes con el Proyecto de Desarrollo de la Floricultura en la República Argentina (en adelante denominada "El Proyecto"), han realizado una serie de conversaciones para la implementación del Proyecto con respecto al Resumen de Discusiones del Proyecto.

Como consecuencia de las conversaciones, ambas partes confirmaron los puntos descritos en las planillas adjuntas y los puntos confirmados serán recomendados a los respectivos Gobiernos por las partes.

Los puntos de las planillas adjuntas son tratados a condición de que el necesario presupuesto sea asignado para la implementación del Proyecto y están sujetas a cambios dentro del esquema del Resumen de Discusiones cuando surja la necesidad en el curso de la ejecución del Proyecto.

Confeccionado en idioma español e inglés, siendo cada uno de ellos igualmente auténtico. En caso de surgir dudas en la interpretación, prevalecerá el texto en inglés.

Buenos Aires, 7 de Diciembre de 1998.

小西 国義
.....
Dr. Kuniyoshi KONISHI
Jefe
Misión de Estudio de Implementación
Agencia de Cooperación
Internacional del Japón
Japón

Luis María Firpo Brenta
.....
Ing. Agr. Luis María FIRPO BRENTA
Vicepresidente
Instituto Nacional de Tecnología Agropecuaria
República Argentina

1. PROGRAMA TENTATIVO PARA LA EJECUCION

Ambas partes han formulado conjuntamente el Programa Tentativo de Ejecución del Proyecto como figura en el ANEXO I.

2. DISEÑO MATRICIAL DEL PROYECTO

Ambas partes han formulado conjuntamente el Programa Tentativo de Ejecución del Proyecto como figura en el ANEXO I

La matriz especifica los objetivos, resultados y actividades del Proyecto, y establece qué debería llevar a cabo el Proyecto y las medidas que el mismo debería tomar para la efectiva administración para esa ejecución. Esta Matriz es utilizada para el monitoreo de las actividades y la ejecución del Proyecto, y éste deberá ser flexiblemente revisado de acuerdo a los cambios en las condiciones externas con la aprobación del Comité Conjunto de Coordinación.

3. MEDIDAS A TENER EN CUENTA PARA LA IMPLEMENTACION DEL PROYECTO

Para la adecuada y efectiva implementación del Proyecto, ambas partes acuerdan tomar las medidas necesarias descritas en el ANEXO III.



LISTADO DE LOS ANEXOS

ANEXO I	PROGRAMA TENTATIVO PARA LA EJECUCION
ANEXO II	DISEÑO MATRICIAL DEL PROYECTO
ANEXO III	RECOMENDACIONES HECHAS POR AMBAS PARTES PARA LA EJECUCION DEL PROYECTO

9-10

PROGRAMA TENTATIVO PARA LA EJECUCION

1. PROGRAMA ANUAL

ACTIVIDADES DEL PROYECTO	AÑO DE PROYECTO				
	1ro	2do	3ro	4to	5to
I. Investigación sobre técnicas de exploración, colección, evaluación y preservación en materiales de plantas ornamentales de origen argentino					
II. Investigación sobre tecnologías aplicadas para plantas ornamentales florícolas de la República Argentina <ul style="list-style-type: none"> • Mejoramiento del hábito de floración en cada especie floral • Selección para acortar el estadio juvenil en árboles ornamentales de flores • Mejoramiento para tolerancia a sales, especialmente de alta concentración de sodio • Mejoramiento mediante la producción de poliploides 					
III. Investigación en el mejoramiento práctico de cultivares en especies ornamentales florales <ul style="list-style-type: none"> • Comparación entre cultivares foráneos introducidos y cultivares domésticos • Introducción de nuevas variantes genéticas de plantas nativas argentinas que demuestren valores potenciales ornamentales a cultivares comerciales • Propagación mediante cultivo de tejidos 					



2. PROGRAMA DE COOPERACION TECNICA

ITEM	AÑO DE PROYECTO				
	1ro	2do	3ro	4to	5to
1. Parte Japonesa					
(1) Expertos de Largo Plazo					
1) Jefe de Asesores					
2) Coordinador					
3) Expertos en los siguientes campos:					
a) Evaluación y mejoramiento de potenciales especies ornamentales					
b) Mejoramiento de variedades cultivadas					
(2) Expertos de Corto Plazo		(Cuando sea necesario)			
(3) Capacitación de contrapartes en Japón					
(4) Provisión de maquinarias y equipos					
(5) Envío de misiones de estudio		(Cuando sea necesario)			
4. Parte Argentina					
(1) Personal Contraparte y Administrativo					
1) Director del Proyecto					
2) Coordinador del Proyecto					
3) Personal Contraparte de los Expertos Japoneses					
4) Personal Administrativo					
5) Otro personal necesario de apoyo					
(2) Terreno, edificio e instalaciones					
1) Oficina y facilidades necesarias para el Jefe de Asesores y otros Expertos					
2) Laboratorios y facilidades anexas					
3) Otras facilidades requeridas por acuerdo mutuo					
(3) Provisión de gastos corrientes del proyecto					

(Handwritten signature and initials)

DISEÑO MATRICIAL DEL PROYECTO

Síntesis del Proyecto	Indicadores Verificables	Medios de Verificación	Premisas importantes				
<p>I. Objetivo Principal El Proyecto se ha fijado como objetivo principal el aumento de los beneficios de los productores florícolas, a través del mejoramiento de la calidad de los productos florícolas en la República Argentina.</p>	<p>1. Aumentarán los ingresos de los productores florícolas con relación al promedio de ingresos de 1999. 2. Aumentará en la República Argentina la producción de flores con relación a 1999.</p>	<p>1. Datos estadísticos de la República Argentina. Boletín anual de floricultura. 2. Datos estadísticos de la República Argentina.</p>	<p>A. Se mantendrán las políticas de apoyo hacia la floricultura de la Argentina. B. El INTA promoverá la difusión de los resultados del Proyecto hacia los productores florícolas. C. Se organizará el sistema de comercialización de productos florícolas.</p>				
<p>II. Propósito del Proyecto El objetivo del Proyecto es incrementar las actividades de investigación en el campo florícola y las tecnologías de mejoramiento en flores a través del uso de cultivares beneficiosos de origen argentino.</p>	<p>1. El personal contratante presentará tesis sobre mejoramiento de flores en congresos de floricultura de la República Argentina. 2. Se capacitará al personal contratante para que creen por sí mismos nuevos cultivares prácticos.</p>	<p>1. Reportes en congresos anuales de floricultura. 2. Reportes en congresos anuales de floricultura. Boletín anual del INASE</p>	<p>D. La Unidad de Investigación creada por Argentina continuará sus actividades.</p>				
<p>III. Resultados del Proyecto (1) Investigadores argentinos capacitados en el campo de nuevos sistemas de mejoramiento y métodos de preservación, usando potencialmente plantas ornamentales nativas de la Argentina y variedades comerciales, tomando ventaja de las riquezas de los recursos genéticos. (2) Aprobada tecnología de mejoramiento floral establecida sobre la base de las teorías de mejoramiento y floricultura bajo las condiciones climáticas argentinas. Establecimiento de una tecnología apropiada y práctica sobre mejoramiento floral.</p>	<p>1-1-3. Se recopilará información sobre recursos genéticos de plantas ornamentales nativas. 1-4. Se establecerán los métodos de preservación de materiales de mejoramiento. 2-1-4. Se completará la tabla de variantes de los cultivares junto con la genealogía de cultivares. 2-1-4. Se completará el estándar de test de mejoramiento. 3-1. Se establecerán el estándar para el test de adaptabilidad de las condiciones climáticas en la Argentina y el test de varias características. 3-2-3. De acuerdo al grado de avance del Proyecto, se crearán nuevos cultivares y se producirán semillas y plántulas de nuevos cultivares.</p>	<p>1-1-3. Información recopilada. Reportes de investigación. 1-4-3-3. El informe del Proyecto. Reportes de investigación. Publicaciones</p>	<p>E. La Unidad de Investigación relacionada a la floricultura será creada por la República Argentina. F. Se arregiarán las instalaciones para las actividades de investigación relacionadas al mejoramiento floral.</p>				
<p>IV. Actividades 1 Exploración y colección. 1-2 Determinación de las variantes específicas. 1-3 Evaluación. 1-4 Métodos de preservación. 2-1 Mejoramiento del hábito de floración en cada especie floral. 2-2 Selección para acortar el estirado juvenil en árboles ornamentales de flores. 2-3 Mejoramiento para tolerancia a sales, especialmente de alta concentración de sodio. 2-4 Mejoramiento mediante la producción de poliploides. 3-1 Comparación entre cultivares foráneos introducidos y cultivares domésticos. 3-2 Introducción de nuevas variantes genéticas de plantas nativas argentinas que demuestren valores potenciales ornamentales a cultivares comerciales. 3-3 Propagación mediante cultivo de tejidos</p>	<p>V. Aportes para el Proyecto</p> <table border="1" data-bbox="798 672 877 896"> <tr> <td>Parte Japonesa</td> <td>Parte Argentina</td> </tr> <tr> <td>1. Envío de Expertos Japoneses. 2. Capacitación del personal Argentino en Japón. 3. Provisión de maquinarias y equipos</td> <td>1. Servicios de la contraparte Argentina y personal administrativo. 2. Provisión del terreno, edificio e instalaciones. 3. Gastos corrientes.</td> </tr> </table> <p>Nota: Ver detalles del Plan Maestro del P/O</p>	Parte Japonesa	Parte Argentina	1. Envío de Expertos Japoneses. 2. Capacitación del personal Argentino en Japón. 3. Provisión de maquinarias y equipos	1. Servicios de la contraparte Argentina y personal administrativo. 2. Provisión del terreno, edificio e instalaciones. 3. Gastos corrientes.	<p>G. El clima en la República Argentina no deberá cambiar considerablemente. H. Los procedimientos relacionados al despacho aduanero y el transporte de los equipos dentro de la República Argentina serán facilitados y acelerados.</p>	<p>G. El clima en la República Argentina no deberá cambiar considerablemente. H. Los procedimientos relacionados al despacho aduanero y el transporte de los equipos dentro de la República Argentina serán facilitados y acelerados.</p>
Parte Japonesa	Parte Argentina						
1. Envío de Expertos Japoneses. 2. Capacitación del personal Argentino en Japón. 3. Provisión de maquinarias y equipos	1. Servicios de la contraparte Argentina y personal administrativo. 2. Provisión del terreno, edificio e instalaciones. 3. Gastos corrientes.						
<p>(Requisitos previos) I. Continuación de las actividades del Centro Tecnológico de Flor-Fruti-Horticultura (CETEFHO).</p>							

**RECOMENDACIONES HECHAS POR AMBAS PARTES
PARA LA EJECUCIÓN DEL PROYECTO**

1. Apoyo Nacional para la Industria de la Floricultura en la República Argentina

Las Autoridades Argentinas competentes establecieron claramente que la industria florícola en la República Argentina será respaldada firmemente con una política a nivel nacional, teniendo en cuenta los resultados fructíferos que se esperan del Proyecto llevados a cabo por propia iniciativa de la parte Argentina en colaboración con la parte Japonesa.

El apoyo Nacional del Gobierno Argentino en el campo arriba mencionado debería estar reflejado en el próximo Plan de Desarrollo Nacional (2000-2004).

2. El papel de CETEFFHO como Organismo Participante en el Proyecto

Las ambas partes Japonesa y Argentina son concientes del indispensable papel de CETEFFHO para la efectiva y eficiente ejecución del Proyecto.

A tal efecto, CETEFFHO proveerá al proyecto el máximo de su experiencia y tecnología en los campos relacionados. Además, parte de los Equipamientos serán ubicados y utilizados por el Proyecto en CETEFFHO.

3. Derechos de Propiedad Intelectual sobre Nuevos Cultivares

Queda claramente establecido por INTA que en el caso de obtener nuevos cultivares durante el Proyecto, INTA deberá registrarlo oficialmente ante el Instituto Nacional de Semillas (INASE) u otra oficina de registro fuera del país en nombre de INTA/JICA, y las regalías y otros ingresos relacionados al nuevo cultivar, deberán ser destinadas al desarrollo del área de floricultura del INTA.

4. Creación de una Unidad de Investigación sobre el Area de Floricultura en INTA

De acuerdo a la Minuta de Discusiones entre las Autoridades Argentinas competentes y la Misión de Estudios Preliminares enviado por JICA firmado en Buenos Aires el 20 de Agosto de 1998, ambas partes han reconfirmado el plan del INTA de crear una Unidad de Investigación y de un equipo local especializado en este campo en el INTA durante la vigencia del Proyecto.



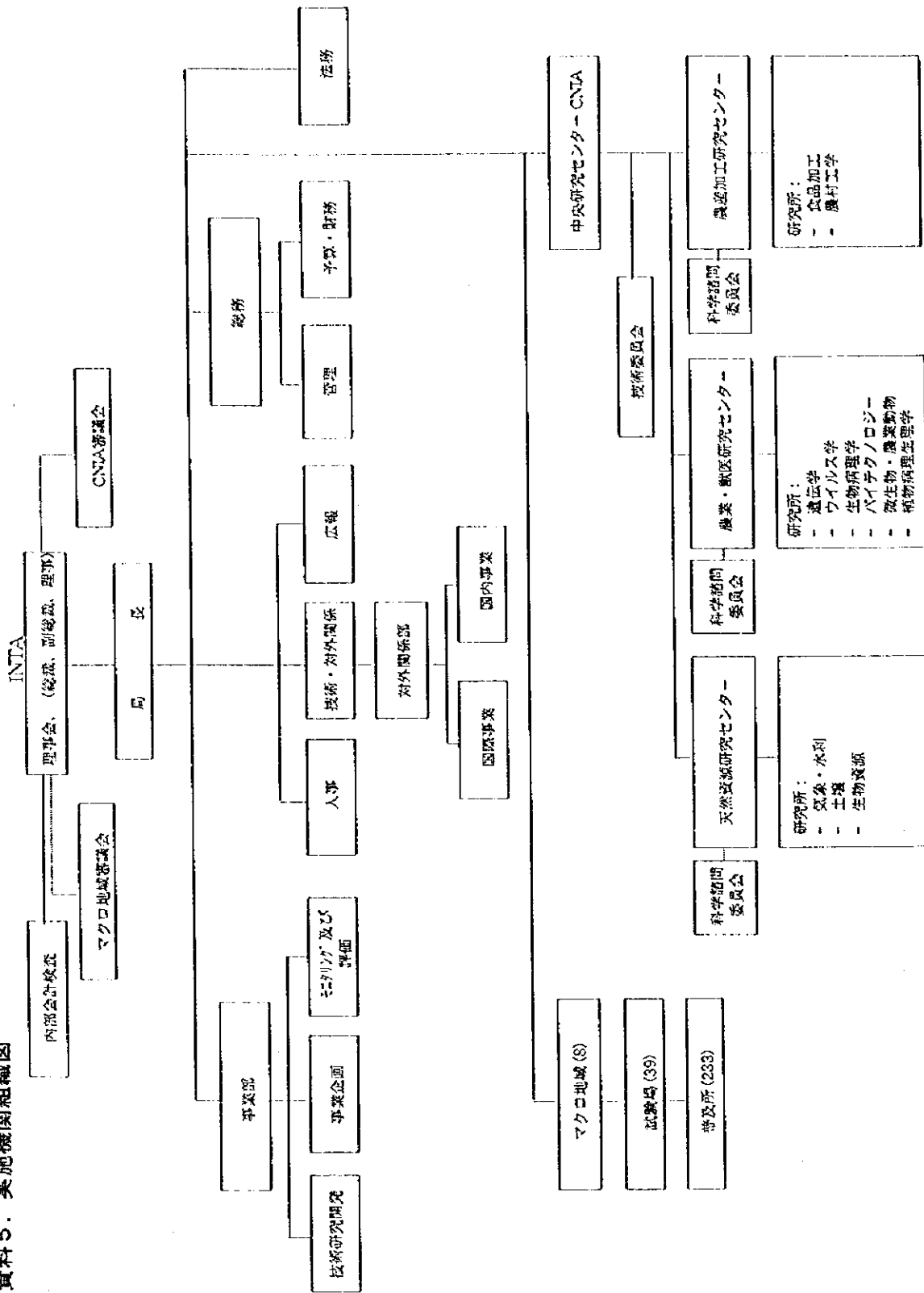
5. Promoción de las Actividades del Proyecto

En consideración con el adecuado comienzo y la activación del Proyecto, INTA deberá garantizar las continuas asignaciones presupuestarias para el Proyecto en el curso del mismo, como la organización para su implementación, y especialmente INTA proveerá dos invernáculos simples dentro de los primeros dos años del plazo del Proyecto.

Además INTA deberá preparar un listado del personal de contraparte de tiempo completo, también enviar las solicitudes oficiales relacionadas al envío de expertos Japoneses, la provisión de maquinarias y equipos y demás al Gobierno del Japón, sin demoras.

(i) J.S.

付属資料 5. 実施機関組織図



付属資料6. 供与機材リスト(暫定)

アルゼンティン園芸開発計画 主要な機材 (1/2)

平成11年1月22日

用途別内訳	1年度 (1999年度)		2年度 (2000年度)		3年度 (2001年度)		4年度 (2002年度)		5年度 (2003年度)		計		
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円			
1.植物資源探索	10,000 車輛(2台)	3,500 工具(一式)	100 金地球部位シヤム	200 携帯用冷蔵庫	200 双眼望遠鏡	300 一眼レフカメラ	400 無線機	100 標本乾燥器	300 さく葉収納庫			15,500	
2.顕微鏡、組織標本	916 実体顕微鏡(2台)	1,000 顕微鏡写真装置		619 生物顕微鏡		2,035 顕微鏡		810 顕微鏡				5,380	
3.種子・植物組織等貯蔵	340 種子水分計	108 自動乾燥デシケーター	500 種子貯蔵容器(50)	1,300 種子計数機	550 種子比重選別機	1,542 種子発芽検定機	1,560 アポプラズムキター	1,000 液体窒素保存容器		500 種子貯蔵容器(50)	500 球根貯蔵容器(50)		
4.組織培養									550 振とう培養機	1,010 CO2シキパター	1,700 シヤムシヤム	3,900 2,300 15,200 500	30,560

アルゼンティン園芸開発計画 主要な機材 (2/2)

平成11年1月22日

用途別内訳	1年度 (1999年度)		2年度 (2000年度)		3年度 (2001年度)		4年度 (2002年度)		5年度 (2003年度)		計
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
5.温室・園場	光合成照度計 50	50	照射装置 1,000	1,000	液肥コントローラー 2,500	2,500	液肥コントローラー 900	900	ポート管理システム 1,000	1,000	
	硬質フィルム張り鉄骨温室 4,800	4,800	温度センサーコントローラー 2,000	1,300							13,550
6.分析用器機			色差計 900	900	分光光度計 1,370	1,370	70-サイトメーター 15,000	15,000	PCR 電気泳動装置 550	1,100	21,430
	純粋製造装置 1,450	1,450	遠心分離機 210	210	超音波洗浄機 752	752					
7.一般実験機器類	pHメーター 248	248	マイクロスケール 180	180							
	電子化学天秤 54	54	ポリアクリル酸 800	800							
	冷蔵庫 400	400	デスタット型パソコン 500	500							4,974
8.データ処理関係	デスタット型パソコン 500	500	プリンター 360	360							
	植物遺伝資源管理用データベース 1,600	1,600									3,360
全合計	27,316	17,373	30,015	25,300	2,650	102,654					

(注) 機材は1台当たり10万円以上のものを掲載しており、複数のもものは合計金額である。

